

講義概要

(シラバス)

2026

臨床心理学研究科

臨床心理学専攻（修士課程）

新潟青陵大学大学院

GURADUATE SCHOOL OF NIIGATA SEIRYO UNIVERSITY

2026 年度入学生

教育課程表

講義概要（1 年次開講科目）

教育課程表（令和8年度〔2026〕入学生適用）

授 業 科 目	講義 番号	授業 年次	単 位			1 年		2 年		担 当 教 員	
			必修	選択 必修	選択	前期	後期	前期	後期		
臨床心理学特論Ⅰ	101	1	2			2				伊藤真理子	
臨床心理学特論Ⅱ	102	1	2				2			本間恵美子・引土達雄	
臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	103	1	2			2				宮澤淳滋	
臨床心理面接特論Ⅱ	104	1	2				2			浅田剛正	
臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	105	1	2			2				本間恵美子・引土達雄・宮澤淳滋	
臨床心理査定演習Ⅱ	106	1	2				2			引土達雄・宮澤淳滋・小林大介・☆中村協子	
臨床心理基礎実習Ⅰ	107	1	2			2				伊藤真理子・浅田剛正・引土達雄	
臨床心理基礎実習Ⅱ	108	1	2				2			小林智・宮澤淳滋	
臨床心理実習Ⅰ	109	2	1					1		伊藤真理子、他（計11名）※1	
臨床心理実習Ⅱ	110	2	1						1	浅田剛正、他（計11名）※2	
臨床心理演習Ⅰ	201	1		4		4				浅田剛正、他（計8名）※3	
臨床心理演習Ⅱ	202	2		4				4		伊藤真理子、他（計12名）※4	
心理実践実習Ⅰ	203	1		4		4				伊藤真理子、他（計12名）※5	
心理実践実習Ⅱ	204	2		6				6		本間恵美子、他（計12名）※6	1コマに外部講師招聘（病院CP）
臨床心理学研究法特論	205	1		2		2				碓井真史・本間恵美子・浅田剛正	
心理学研究法演習	206	1		2		2				○新國佳祐	オンデマンド
精神保健医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	207	1		2		2				浅田剛正・○関谷昭吉・☆朴秀賢	夏季集中講義
学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	208	2		2				2		小林大介	1コマに外部講師（スクールカウンセラー）招聘予定
非行・犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	209	2		2				2		☆佐藤亨・小林大介	1コマに外部講師（県警被害者支援室カウンセラー）招聘予定
産業保健心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	210	1		2			2			碓井真史・小林智・小林大介・★齋藤智・★宮崎隆徳	
家族・地域支援心理学特論（家族・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	211	2		2				2		小林智・○佐藤修哉	
障害者（児）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	212	1・2		2				2		引土達雄	後期隔年開講 2026年度開講
メンタルヘルス特論（心の健康教育に関する理論と実践）	213	1・2		2				2		○齋藤恵美・○佐藤修哉	前期隔年開講 2026年度開講
精神分析学特論	214	1・2		2				2		☆大森智恵	前期隔年開講 2026年度集中（夏季）
特定課題研究Ⅰ	301	1	2			2				伊藤・碓井・本間・浅田・宮澤・引土・小林智・小林大介	
特定課題研究Ⅱ	302	2	2					2		伊藤・碓井・本間・浅田・宮澤・引土・小林智・小林大介	

○福祉心理学部専任教員

★短大教員

●看護学部教員

☆学外非常勤講師

※1 臨床心理実習Ⅰ担当教員：伊藤、本間、浅田、小林智、小林大、宮澤、引土、○真壁、○佐藤修、☆中村、☆佐藤亨

※2 臨床心理実習Ⅱ担当教員：浅田、本間、伊藤、小林智、小林大、宮澤、引土、○真壁、○佐藤修、☆中村、☆佐藤亨

※3 臨床心理演習Ⅰ担当教員：浅田・本間・伊藤・宮澤・引土・小林智・小林大・○真壁

※4 臨床心理演習Ⅱ担当教員：伊藤・本間・浅田・小林智・小林大・宮澤・引土・○真壁・○齋藤・○佐藤修・☆中村・☆佐藤亨

※5 心理実践実習Ⅰ担当教員：伊藤・本間・浅田・小林智・小林大・宮澤・引土・○真壁・○齋藤・○佐藤修・☆中村・☆佐藤亨

※6 心理実践実習Ⅱ担当教員：本間・伊藤・浅田・小林智・小林大・宮澤・引土・○真壁・○齋藤・○佐藤修・☆中村・☆佐藤亨

※7 上記教育課程表に示す授業科目は、新潟青陵大学大学院臨床心理学研究科を専攻する者に特化して開講されるものとする。

研究科・学 年		臨床心理学研究科 1 年							
講義番号	101	教科名	臨床心理学特論 I				授業形態	講義	
単位数	2	必・選	必修	開講時期	前期	担当者	伊藤 真理子		
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照							
講義の概要 (教育目標を含む)		臨床心理学とは心理臨床実践に基づいた心理学であり、その実践分野は多岐に渡り、技法もその基盤となる治療観も様々である。 多種多様な理論や技法が共有する心理臨床の基礎、基盤とは何かについて論ずる。具体的には臨床心理学の歴史やパラダイム、その対象や用いる手段について概説し、ディスカッションを交え理解を深める。 後半は、遊戯療法に焦点を当て、遊びをどう捉えるのか、またどのようなセッティングが必要とされるのかなど、実践的なトピックスについて理解を深める。							
学生の学習 (行動)目標		1. 臨床心理学の成り立ちとその依って立つパラダイムについて説明できる。 2. 遊戯療法の基礎的な理論を理解し、説明することができる。							
授業計画(シラバス)									
回	内 容					キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1回	臨床心理学の成り立ちとパラダイム					歴史 シャーマニズム 主観性 一回性 関係性	予習:レジュメ作成 復習:小レポート作成		4
2回	心理療法とは何か					心理療法家のイニシエーション	予習:レジュメ作成 復習:小レポート作成		4
3回	心理臨床の対象①					正常と異常 治療目標 病態水準 障害	予習:レジュメ作成 復習:小レポート作成		4
4回	心理臨床の対象②					心理療法と教育 心理療法と宗教	予習:レジュメ作成 復習:小レポート作成		4
5回	心理臨床における表現					言語 非言語 言葉 イメージ 身体	予習:レジュメ作成 復習:小レポート作成		4
6回	耳を傾けること					傾聴 共感 転移	予習:レジュメ作成 復習:小レポート作成		4
7回	事例検討					事例検討	予習:レジュメ作成 復習:小レポート作成		4
8回	遊戯療法とは					遊び	予習:レジュメ作成 復習:小レポート作成		4
9回	こどもの発達					遊びと発達	予習:レジュメ作成 復習:小レポート作成		4
10回	遊戯療法の構造					ブレイルーム 時間 守秘	予習:レジュメ作成 復習:小レポート作成		4
11回	遊戯療法における初回面接とアセスメント					初回面接 生育歴 ラポール	予習:レジュメ作成 復習:小レポート作成		4
12回	親子平行面接					平行面接 家族 母親	予習:レジュメ作成 復習:小レポート作成		4
13回	遊びの理解					関係性 イメージ 非言語表現 身体	予習:レジュメ作成 復習:小レポート作成		4
14回	遊戯療法の諸学派					子ども中心療法 クライン ユング	予習:レジュメ作成 復習:小レポート作成		4
15回	事例検討					遊戯療法 事例検討	予習:レジュメ作成 復習:小レポート作成		4
16回									
計									60
成 績 評 価		小テスト		学習成果のフィードバック		作成された小レポートの内容を中心に次の講義時にフィードバックを行う。			
		試験							
		レポート	40%						
		学習態度	20%	備 考		毎回の講義後に講義内容に関する小レポートを作成する。 講義中の発表・ディスカッションへの参加姿勢を学習態度として評価する。 毎回各自講義テーマに関するレジュメ作成を行う。その内容をその他として評価する。			
		その他	40%						
		計	100%						
テ キ ス ト		講義中に資料配布、または、下記の参考書を参照する。							
テキスト以外の 参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)		1	「臨床心理学特論(放送大学大学院教材)」小川俊樹 倉光修 放送大学教育振興会 2017						
		2	心理療法序説(岩波現代文庫〈心理療法〉コレクションⅣ)河合隼雄 河合俊雄編 岩波書店 2009						
		3	心理療法入門(岩波現代文庫〈心理療法〉コレクションⅥ)河合隼雄 河合俊雄編 岩波書店 2010						
		4	カウンセリングの実践(岩波現代文庫〈心理療法〉コレクションⅡ)河合隼雄 河合俊雄編 岩波書店 2009						
		5	心理臨床の理論 河合俊雄 岩波書店 2000						
		6	子どもの心理臨床入門 永井徹 金子書房 2005						
		7	母親の心理療法 橋本やよい 日本評論社 2000						
		8	遊戯療法 V.M.アクスライン 岩崎学術出版社 1972						
		9	プレイセラピー 関係性の営み G.L.ランドレス 日本評論社 2007						
		10	遊戯療法 様々な領域の事例から学ぶ 伊藤良子編著 ミネルヴァ書房 2017						
履修上の注意事項や 学習上の助言など		* 授業内の討論への積極的な参加、レポートへの熱心な取り組みを期待する。 * 課題の理解を深めるための情報収集や文章の推敲に生成AIを活用することができる。ただし、提出レポートは必ず自身の思考によるものとし、AI利用の有無と範囲を明記すること。							

研究科・学 年		臨床心理学研究科 1年						
講義番号	102	教科名	臨床心理学特論Ⅱ				授業形態	講義
単位数	2	必・選	必修	開講時期	後期	担当者	本間 恵美子・引土 達雄	
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照						
講義の概要 (教育目標を含む)		2, 4, 6回:心理臨床現場における倫理(心理専門職の責任、インフォーム・ドコンセント、秘密保持、多重関係、専門性の向上)について検討する。 1, 3回:心理臨床に関連する意識のさまざまな状態について検討する。 5, 7～10回:ワーキングメモリと実行機能について、それぞれ心理臨床につながる基本的な考え方を提示し、支援につながるポイントを検討する。 11～13回:高齢者の心理社会的特徴を把握し、支援について考えていく。 14～15回:ひきこもり者及びその家族についての特徴を把握し、支援について考えていく。						
学生の学習 (行動)目標		1. 心理臨床現場において求められる倫理を理解し、その意味について説明できる。 2. ワーキングメモリを中心とした認知機能の基本的な仕組みと生涯発達の特徴を理解し、これらに起因する心理的問題と支援について説明できる。 3. 高齢者とひきこもりの心理的特徴とそれを取り巻く人間関係および支援について説明できる。						
授業計画(シラバス)								
回	内 容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1回	意識の状態				睡眠、睡眠障害	復習:配布プリントをもとに基本的な用語をまとめる。		4
2回	臨床心理士・公認心理師における基本的倫理と責任				臨床の場における責任	復習:配布プリントをもとに基本的な用語をまとめる。		4
3回	催眠				催眠	復習:配布プリントをもとに基本的な用語をまとめる。		4
4回	臨床心理士・公認心理師におけるインフォームド・コンセント、秘密保持				インフォーム・ドコンセント、秘密保持	復習:配布プリントをもとに基本的な用語をまとめる。		4
5回	ワーキングメモリのしくみ				ワーキングメモリ	復習:配布プリントをもとに基本的な用語についてまとめる。		4
6回	臨床心理士・公認心理師における多重関係の問題、職能的専門性の向上				多重関係の問題・専門性の向上	復習:配布プリントをもとに基本的な用語をまとめる。		4
7回	ワーキングメモリの発達				ワーキングメモリの発達	復習:配布プリントをもとにワーキングメモリの発達の傾向についてまとめる。		4
8回	ワーキングメモリと学習支援				ワーキングメモリの障害、学習支援	復習:配布プリントをもとに基本的な考え方と支援についてまとめる。		4
9回	実行機能のしくみと問題				実行機能、事例検討	復習:配布プリントをもとに基本的な用語と考え方をまとめる。		4
10回	ワーキングメモリと実行機能から見た認知症				認知症、ワーキングメモリ、実行機能	復習:配布プリントをもとに基本的な考え方と支援についてまとめる。		4
11回	高齢者の心理社会的特徴1:70代まで				アイデンティティの変化、活動理論、離脱理論	復習:配布プリントをもとに前期高齢者の心理社会的特徴と支援に関連する要因をまとめる。		4
12回	高齢者の心理社会的特徴2:80代以上				フレイルと精神的適応、社会情動的選択性理論、老年的超越	復習:配布プリントをもとに後期高齢者の心理社会的特徴と支援に関連する要因をまとめる。		4
13回	高齢者の心理社会的特徴3:適応とウェルビーイング				適応、ウェルビーイング、事例検討	復習:配布プリントをもとに高齢者の心理的特徴と支援に関連する要因をまとめる。		4
14回	ひきこもり1:本人への理解と対応				ひきこもり	復習:配布プリントをもとにひきこもり者の心理社会的特徴と支援に関連する要因をまとめる。		4
15回	ひきこもり2:親への理解と親の会				親子関係、親の会	復習:配布プリントをもとにひきこもり者とその親がたどりやすい心理社会的プロセスと支援に関連する要因をまとめる。		4
16回								
計								60
成 績 評 価		小テスト	55%	学習成果のフィードバック	・小テストは2回行う予定であり、中間については結果をフィードバックする。 ・倫理については、毎回のリアクションペーパーとレポート1回を課す。			
		試験						
		レポート	15%					
		学習態度	30%	備考	・学習態度については、ディスカッションへの参加、課題への取り組みなどをもとに総合的に評価する。			
		その他						
		計	100%					
テキスト		なし(プリント資料を配布する) 基本的には紙で配布するが、補助的な資料についてはClassroomからダウンロードする。						
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)		1	臨床心理学の倫理を学ぶ、金沢吉展、東京大学出版会、2006					
		2	「認知症ケアのための心理アセスメントと心理支援」 小海宏之・若松直樹・川西智也編著 金剛出版 2022年					
		3	「わたしを律するわたし」 森口佑介著 京都大学学術出版会 2012年					
		4	心理臨床と倫理、村本詔司、朱鷺書房、1998					
		5	「ワーキングメモリと特別な支援」 湯沢美紀、他編著 北大路書房 2013年					
		6	「超高齢社会を生きる」 日本心理学会監修 誠信書房 2016年					
		7	「ひきこもりの心理支援」 日本臨床心理士会監修 金剛出版 2017年					
		8	「催眠の科学」 成瀬悟策著 講談社ブルーバックス 1997年					
		9						
		10						
		11						
履修上の注意事項や学習上の助言など		本科目では、思考力育成を目的とする課題(小テスト)においては生成AIの使用を認めません。一方、情報収集が必要な課題については、AIを活用し、その利用方法を明記してください。						

研究科・学 年		臨床心理学研究科 1年						
講義番号	103	教科名	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）				授業形態	講義
単位数	2	必・選	必修	開講時期	前期	担当者	宮澤 淳滋	
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照						
講義の概要 (教育目標を含む)		要支援者に対する心理面接の理論とその実際について学ぶ。精神力動論に基づく要支援者の理解と支援のあり方、行動論・認知論に基づく認知行動療法の理論と支援のあり方、さらにその他の心理療法の理論と支援のあり方について学ぶ。心理に関する要支援者に対して適切な見立て(アセスメント)をし、その後の支援方法の選択や調整が出来るために実践的な考え方を修得する。心理療法において生じる現象について、実践的な学習を積むことで理解を深める。また、心理療法の参考になるひとつの映画を四回にわけて取り上げ考察する。授業形式は講義およびディスカッションを通して行う。						
学生の学習 (行動)目標		・心理療法の基盤となるそれぞれの理論について説明できる ・心理的支援の適切な選択や具体的な進め方の基礎となる考え方を説明できる ・心理的支援におけるアセスメントの実践的な考え方を習得し、説明できる ・心理療法では何を目的として、何を行うのか、自分の考えを交えて説明できる						
授業計画(シラバス)								
回	内 容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1回	イントロダクション:臨床心理面接の概説				心理療法の目的、主体、他者	予習:参考文献を参照し予習しておく 復習:配布資料を読み理解を深める		2
2回	インテーク面接				見立て、病態水準、リファーマ	予習:参考文献を参照し予習しておく 復習:配布資料を読み理解を深める		2
3回	アセスメント面接				情報収集、医学モデルと心理学モデル	予習:参考文献を参照し予習しておく 復習:配布資料を読み理解を深める		2
4回	器としての心理療法				面接構造、連携、集団守秘義務、倫理	予習:参考文献を参照し予習しておく 復習:配布資料を読み理解を深める		2
5回	心理療法で行われること				関与しながらの観察、創造としての解釈、心理療法の第三のもの	予習:参考文献を参照し予習しておく 復習:配布資料を読み理解を深める		2
6回	認知行動療法				心理教育、コラム法、不安階層表、エクスポージャー	予習:参考文献を参照し予習しておく 復習:配布資料を読み理解を深める		4
7回	精神分析				防衛機制、転移逆転移、自我と無意識	予習:事前に配布する資料を参照し、ディスカッションの準備をしておく 復習:ディスカッションを振り返り理解を深める		8
8回	その他の心理療法:人間性心理学				来談者中心療法、心理療法の過程、自己実現、人生の意味	予習:参考文献を参照し、ディスカッションの準備をしておく 復習:ディスカッションを振り返り理解を深める		10
9回	アートセラピー				イメージ、自画像、アートに現れること	予習:事前に配布する資料を参照し、ディスカッションの準備をしておく 復習:ディスカッションを振り返り理解を深める		8
10回	夢分析				拡充法、補償、夢の人物像	予習:参考文献を参照し予習しておく 復習:配布資料を読み理解を深める		4
11回	映画を題材に心理療法を考える1				異性像、面接構造	予習:事前に指定された映画を鑑賞し、ディスカッションの準備をしておく 復習:ディスカッションを振り返り理解を深める		6
12回	映画を題材に心理療法を考える2				無意識の活性化、死者との対話	予習:前回の授業内容を振り返っておく 復習:ディスカッションを振り返り理解を深める		2
13回	映画を題材に心理療法を考える3				無意識の危険性、悪	予習:前回の授業内容を振り返っておく 復習:ディスカッションを振り返り理解を深める		2
14回	映画を題材に心理療法を考える4				瞬間的な今この現れ、超越性	予習:前回の授業内容を振り返っておく 復習:ディスカッションを振り返り理解を深める		2
15回	事例検討				心理支援への応用	予習:事前に配布する資料を参照し、ディスカッションの準備をしておく 復習:ディスカッションを振り返り理解を深める		4
16回								
計								60
成 績 評 価		小テスト		学習成果のフィードバック	・レポートに対して授業内でフィードバックする。 ・グループディスカッションを行って発表する。その際コメントをする。			
		試験						
		レポート	70%					
		学習態度	30%	備考	レポート:毎回レポートの提出が義務づけられる。 学習態度:ディスカッションにおいて、積極的な参加が求められる。			
		その他						
		計	100%					
テ キ ス ト		購入するテキストは指定しません。授業資料はLMSで事前配布します。毎回PCを持参してください。						
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)		1	「臨床心理面接特論」大山泰宏・小林真理子編 放送大学教育振興会(2019)					
		2	「夜と霧」ヴィクトール・E・フランクル著 みすず書房(2002)					
		3	「不安障害の認知行動療法Ⅰ パニック障害と広場恐怖」 ギャビン アンドリュース他著 星和書店(2003)					
		4	「精神分析という語らい」藤山直樹 岩崎学術出版社(2011)					
		5	「女のいない男たち」村上春樹著 文藝春秋(2014)					
		6	「ワーニャ伯父さん」チェーホフ著 光文社(2009)					
		7	「精神科における予診・初診・初期治療」笠原嘉著 星和書店(2007)					
		8						
		9						
		10						
履修上の注意事項や学習上の助言など		講義内容を知的に理解するだけでなく、自分の経験やこころの動きに照らし合わせながら理解した上で、自分の言葉でディスカッションにのぞんでほしい。準備に時間を要する回があるので、計画的に取り組んでいただきたい。 課題の理解を深めるための情報収集や文章の推敲に生成AIを活用できる。ただし、最終的には自身の思考を含むものとし、AI利用の有無と範囲を明記すること。						

研究科・学 年		臨床心理学研究科 1 年						
講義番号	104	教科名	臨床心理面接特論Ⅱ				授業形態	講義
単位数	2	必・選	必修	開講時期	後期	担当者	浅田 剛正	
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照						
講義の概要 (教育目標を含む)		臨床心理面接とは、多様な学派によって理論づけられた心理療法、心理カウンセリングを含めながらも、一般的な「面接」とは異なるパラダイムに基づく専門的方法論のことを指す。本講義では、臨床心理面接において汎用性をもつ諸概念を実践的な文脈において位置づけなおし、クライアントとの生身の人間関係に生じる現象とそこでセラピストが留意すべき事項に関してディスカッションを交わすことによって理解を深めることを目指す。また、代表的な心理療法・カウンセリングの理論体系をその理論化された背景を踏まえて読み解くことで、各オリエンテーションの異同の意味について理解してゆく。						
学生の学習 (行動)目標		大学院生は与えられたテーマに沿って、指定された文献を中心として個々に複数の文献に当たり、学んだことをレジュメにまとめる。各自が出席者全員に対してプレゼンテーションを行い、それを基に全員でディスカッションをして理解を深めることができる。						
授業計画(シラバス)								
回	内 容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1回	臨床心理面接とは？				臨床の知、カウンセリング、心理療法	各自、事前に授業テーマに関するキーワードについて、テキストおよび参考文献にあたって調べておくこと。各回の後には資料を復習し、コメントを提出すること。		4
2回	面接における基本的事項① 会うこと、聴くこと、見立てること				クライアント(来談者)、非日常性、見立て	一回目の準備学習に加え、2回目以降の発表担当者は、授業テーマおよびキーワードについて調べたレジュメを作成しておくこと。復習については一回目と同じ。		4
3回	面接における基本的事項② 面接の枠組みと面接構造論(外的枠)				守秘、料金、面接空間、枠、並行面接	一回目の準備学習に加え、3回目以降の発表担当者は、授業テーマおよびキーワードについて調べたレジュメを作成しておくこと。復習については一回目と同じ。		4
4回	面接における基本的事項③ 面接関係と面接契約(内的枠)				面接契約、他者性、転移・逆転移、共感的理解	一回目の準備学習に加え、4回目以降の発表担当者は、授業テーマおよびキーワードについて調べたレジュメを作成しておくこと。復習については一回目と同じ。		4
5回	面接過程における諸課題① 面接での出会いとアセスメント				主訴、生育歴・現症歴・家族歴、アセスメント	一回目の準備学習に加え、5回目以降の発表担当者は、授業テーマおよびキーワードについて調べたレジュメを作成しておくこと。復習については一回目と同じ。		4
6回	面接過程における諸課題② 面接の展開と諸課題				傾聴、抵抗、転移性治癒、物語、遅刻・キャンセル、ワーキングスルー	一回目の準備学習に加え、6回目以降の発表担当者は、授業テーマおよびキーワードについて調べたレジュメを作成しておくこと。復習については一回目と同じ。		4
7回	面接過程における諸課題③ 技法の導入と危機対応				中間領域、行動化・身体化、イニシエーション	一回目の準備学習に加え、7回目以降の発表担当者は、授業テーマおよびキーワードについて調べたレジュメを作成しておくこと。復習については一回目と同じ。		4
8回	面接過程における諸課題④ 面接の終わり				終結、中断、引き継ぎ、心的変容、症状の意味	一回目の準備学習に加え、8回目以降の発表担当者は、授業テーマおよびキーワードについて調べたレジュメを作成しておくこと。復習については一回目と同じ。		4
9回	面接技法① 精神分析学の知見を活かす				反復強迫、治療同盟、自由連想、転移抵抗、解釈、洞察	一回目の準備学習に加え、9回目以降の発表担当者は、授業テーマおよびキーワードについて調べたレジュメを作成しておくこと。復習については一回目と同じ。		4
10回	面接技法② 人間性心理学の知見を活かす				非指示療法、共感的理解、自己実現、自己概念、経験、フォーカシング	一回目の準備学習に加え、10回目以降の発表担当者は、授業テーマおよびキーワードについて調べたレジュメを作成しておくこと。復習については一回目と同じ。		4
11回	面接技法③ 分析心理学の知見を活かす				補償機能、イメージ、元型、夢分析、コンステレーション、錬金術	一回目の準備学習に加え、11回目以降の発表担当者は、授業テーマおよびキーワードについて調べたレジュメを作成しておくこと。復習については一回目と同じ。		4
12回	面接技法④ 行動主義的学習理論を活かす				学習理論、行動療法、認知行動療法、系統的脱感作、ACT、マインドフルネス	一回目の準備学習に加え、12回目以降の発表担当者は、授業テーマおよびキーワードについて調べたレジュメを作成しておくこと。復習については一回目と同じ。		4
13回	臨床心理面接の倫理と訓練① 面接記録の意味とその活用				面接記録、報告書、所見、守秘と連携	一回目の準備学習に加え、13回目以降の発表担当者は、授業テーマおよびキーワードについて調べたレジュメを作成しておくこと。復習については一回目と同じ。		4
14回	臨床心理面接の倫理と訓練② スーパーヴィジョンの意義				スーパーヴィジョン、教育分析	一回目の準備学習に加え、14回目以降の発表担当者は、授業テーマおよびキーワードについて調べたレジュメを作成しておくこと。復習については一回目と同じ。		4
15回	臨床心理面接の倫理と訓練③ 事例検討/報告から事例研究へ				事例検討、事例研究、研究倫理	一回目の準備学習に加え、15回目以降の発表担当者は、授業テーマおよびキーワードについて調べたレジュメを作成しておくこと。復習については一回目と同じ。		4
16回	予備日							
計								60
成 績 評 価		小テスト		学習成果のフィードバック	出席者の発表や発言、事後コメントについて次回授業内に教員からコメントをつけてフィードバックする。			
		試験						
		レポート	40%					
		学習態度	20%	備考	レポート:各回の授業後に扱ったテーマに関する小レポートを課す。 学習態度:ディスカッションへの寄与について評価する。 その他:個々の担当回におけるプレゼンテーション(口頭発表)およびそのためのレジュメ(A4 2枚程度)を評価する。			
		その他	40%					
		計	100%					
テキスト		購入するテキストは指定しない。ただし、共通して大学院生室に所蔵のある下記『心理臨床大事典 (氏原寛 他編 培風館)』を適宜参照すること。						
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)		1	氏原寛 他編(2004) 心理臨床大事典 培風館					
		2	河合隼雄(2013) 新版 心理療法学考 (河合俊雄編) 創元社					
		3	伊藤良子(2011) 心理療法学 京都大学学術出版会					
		4	土井健郎(1977) 新訂 方法としての面接 医学書院					
		5	神田橋條治(1990) 精神療法面接のコツ 岩崎学術出版社					
		6						
		7						
		8						
		9						
		10						
履修上の注意事項や学習上の助言など		臨床心理士はそれぞれ独自のオリエンテーション、理論的基盤、よって立つ立場を定める必要があるため、各々自身の個性やそれに合った方法論、用いる言葉を探求することも目標とされたい。また、各自のそれまでの実習、事例担当など、自身の実践体験に照らしながら、面接理論や諸概念の本質的な理解に生かしてもらいたい。各回のテーマを調べる際にはAIの使用を認めるが、各回に提出するコメントおよびレポートは原則として自分の言葉で記述すること。						

研究科・学 年		臨床心理学研究科 1 年						
講義番号	105	教科名	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）				授業形態	演習
単位数	2	必・選	必修	開講時期	前期	担当者	本間 恵美子・引土 達雄・宮澤 淳滋	
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照						
講義の概要 (教育目標を含む)		心理査定は、臨床心理学の主要分野の一つである。心理査定によって、クライアントの状態像を想定し、かつ、その状態像を治療集団で共有することが可能になる。クライアントの状態像を想定・共有する技術は心理専門職にとって必須であり、この技術が無ければ、現場に貢献し得る心理専門職になることはほぼ不可能である。本授業では心理査定の技術を質問紙、認知症検査、投影法、及び知能検査を通して学び、受講者がクライアントの状態像を想定・共有する技術を身につけることを目指している。主な質問紙法、認知症検査、投影法、及び知能検査を使用して、クライアントの状態像が想定・共有できるようになることが目標である。						
学生の学習 (行動)目標		① 心理アセスメントの理論や意義について説明できる。 ② 心理アセスメントの活用の仕方について理解し、事例に適応できる。 ③ 質問紙法や一部の投射法を自力で実施し得る。 ④ 質問紙法や投射法を用いて、自分の状態像を想定・共有し得る。 ⑤ 知能検査を自力で適切に実施することができる。 ⑥ 知能検査の結果を解釈し支援について考えることができる。						
回	内 容					キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量	準備学習に要する時間
1回	オリエンテーション(本間・引土・宮澤)					心理査定、レポート書き方	＜復習＞レジュメの文献を参考に、検査結果についてのレポートを作成のしかたについて理解する。	1
2回	メンタルヘルス関連検査(本間)					BDI, CED-S, STAI	＜復習＞レジュメやメンタルヘルス関連検査についての文献を参考に、自分の検査結果についてのレポートを作成する。	1
3回	TEG(本間)					TEG	＜復習＞レジュメやTEGについての文献を参考に、自分の検査結果についてのレポートを作成する。	1
4回	YG性格検査					YG性格検査	＜復習＞レジュメやYG性格検査についての文献を参考に、自分の検査結果についてのレポートを作成する。	1
5回	MMPI(本間)					MMPI	＜復習＞レジュメやMMPIについての文献を参考に、自分の検査結果についてのレポートを作成する。	1
6回	MMPI(本間)					MMPI	＜復習＞レジュメやMMPIについての文献を参考に、自分の検査結果についてのレポートを作成する。	1
7回	発達障害関連検査(本間)					AQ, Conners	＜復習＞レジュメや発達障害関連検査についての文献を参考に、自分の検査結果についてのレポートを作成する。	1
8回	発達障害関連検査(本間)					CAARS	＜復習＞レジュメや発達障害関連検査についての文献を参考に、自分の検査結果についてのレポートを作成する。	1
9回	認知症スクリーニング検査(本間)					HDS-R, MMSE-J, BGT	＜復習＞レジュメや認知症スクリーニング検査についての文献を参考に、自分の検査結果についてのレポートを作成する。	1
10回	認知症スクリーニング検査(本間)					COGNISTAT, FAB	＜復習＞レジュメや認知症スクリーニング検査についての文献を参考に、自分の検査結果についてのレポートを作成する。	1
11回	知能検査概論(引土)					知能検査の歴史	＜復習＞配布したレジュメや提示した知能検査の文献を参考に知能検査の活用上の注意について復習する。	1
12回	WAIS-Ⅳ(引土)					ウェクスラー式 WAIS-Ⅳ	予習:WAIS-Ⅳについて調べてまとめる。 復習:講義内容を復習する。	1
13回	投射法概論(宮澤)					投射法	＜復習＞配布したレジュメを読み、注意点について復習する。	1
14回	テストバッテリー・報告書の書き方(宮澤)					テストバッテリー、心理検査報告書	＜復習＞配布したレジュメを読み、注意点について復習する。	1
15回	WAIS-Ⅳ(引土)					ウェクスラー式 WAIS-Ⅳ	予習:WAIS-Ⅳについて調べてまとめる。 復習:講義内容を復習する。	1
16回	WAIS-Ⅳ(引土)					ウェクスラー式 WAIS-Ⅳ	予習:WAIS-Ⅳについて調べてまとめる。 復習:講義内容を復習する。	1
17回	ロールシャッハ概論(宮澤)					片口法、エクスター法	＜予習＞『改訂 新・心理診断法』の該当箇所を熟読し、理解しておく。	1
18回	ロールシャッハの施行法(宮澤)					教示、反応段階、質問段階	＜予習＞『改訂 新・心理診断法』の該当箇所を熟読し、理解しておく。	1
19回	WAIS-Ⅳ(引土)					ウェクスラー式 WAIS-Ⅳ	予習:WAIS-Ⅳについて調べてまとめる。 復習:講義内容を復習する。	1
20回	WAIS-Ⅳ(引土)					ウェクスラー式 WAIS-Ⅳ	予習:WAIS-Ⅳについて調べてまとめる。 復習:講義内容を復習する。	1
21回	ロールシャッハのスコアリング1(宮澤)					反応領域、ローケーションチャート	＜予習＞『改訂 新・心理診断法』の該当箇所を熟読し、理解しておく。	1
22回	ロールシャッハのスコアリング2(宮澤)					決定因、携帯水準	＜予習＞『改訂 新・心理診断法』の該当箇所を熟読し、理解しておく。	1
23回	WISC-V(引土)					ウェクスラー式 WISC-V	予習:WISC-Vについて調べてまとめる。 復習:講義内容を復習する。	1
24回	WISC-V(引土)					ウェクスラー式 WISC-V	予習:WISC-Vについて調べてまとめる。 復習:講義内容を復習する。	1
25回	ロールシャッハのスコアリング3(宮澤)					反応内容、P反応	＜予習＞『改訂 新・心理診断法』の該当箇所を熟読し、理解しておく。	1
26回	ロールシャッハの解釈(宮澤)					防衛、人格水準	＜予習＞『改訂 新・心理診断法』の該当箇所を熟読し、理解しておく。	1
27回	WISC-V(引土)					ウェクスラー式 WISC-V	予習:WISC-Vについて調べてまとめる。 復習:講義内容を復習する。	1
28回	WISC-V(引土)					ウェクスラー式 WISC-V	予習:WISC-Vについて調べてまとめる。 復習:講義内容を復習する。	1
29回	ロールシャッハのロールプレイ1(宮澤)					キーワードに基づいた質問	＜予習＞『改訂 新・心理診断法』の該当箇所を熟読し、理解しておく。	1
30回	ロールシャッハのロールプレイ2(宮澤)					不適切な質問	＜予習＞『改訂 新・心理診断法』の該当箇所を熟読し、理解しておく。	1
31回								
計								30
成績評価	小テスト		学習成果のフィードバック	・提出されたレポートについてフィードバックする。 ・実施法の理解を前提に授業を進め、誤解がある場合は適宜フィードバックする				
	試験							
	レポート	90%						
	学習態度	10%	備考	※各質問紙法、投射法、及び知能検査法毎に理解を確かめるレポートが課される。その内容を評価の対象とする。 ※学習態度は、討議への参加態度、授業中の課題への取り組み方などを総合的に判断する。				
	その他							
計		100%						

テ キ ス ト	特になし。各テストのマニュアル及び配布するプリントを使用する。補助資料はClassroomからダウンロードする。	
テキスト以外の 参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)	1	心理アセスメントハンドブック第2版 監修上里一郎 西村書店 1993
	2	改訂 新・心理診断法 片口安史著 1987
	3	力動的心理査定 馬場禮子編著 岩崎学術出版社 2017
	4	「日本版WAIS-Ⅳ知能検査法 David Wechsler著；日本版WAIS-Ⅳ刊行委員会訳編 実施・採点マニュアル 日本文化科学社 2019
	5	「日本版WAIS-Ⅳ知能検査法 David Wechsler著；日本版WAIS-Ⅳ刊行委員会訳編 理論・解釈マニュアル 日本文化科学社 2019
	6	「日本版WISC-Ⅴ知能検査法 David Wechsler著；日本版WISC-Ⅴ刊行委員会訳編 実施・採点マニュアル 日本文化科学社 2021
	7	「日本版WISC-Ⅴ知能検査法 David Wechsler著；日本版WISC-Ⅴ刊行委員会訳編 理論・解釈マニュアル 日本文化科学社 2022
	8	ロールシャッハ・テスト・包括システムの基礎と解釈の原理 ジョン・E. エクスナー著 金剛出版 2009
	9	よくわかるMMPIハンドブック基礎編 日本MMPI研究会監修 金剛出版 2018
	10	
履修上の注意事項や 学習上の助言など	本科目では、課題の理解を深めるための情報収集や文章の推敲に生成AIを活用できるが、レポートについては個別データであることから自身で考えることが肝要である。AI利用の有無と範囲を明記すること。	

研究科・学 年		臨床心理学研究科 1 年							
講義番号	106	教科名	臨床心理査定演習Ⅱ				授業形態	演習	
単位数	2	必・選	必修	開講時期	後期	担当者	引土 達雄・宮澤 淳滋・小林 大介・☆中村 協子		
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照							
講義の概要 (教育目標を含む)		臨床心理士・公認心理師にとって、心理検査を用いる心理査定は重要な技法の一つである。心理査定法の中でも、特に臨床現場において有効とされる投射法のうちロールシャッハ法と知能検査のWAIS-Ⅳを中心に学ぶ。その施行法と分析、解釈法を習得し、人格や知的能力の臨床的な理解を深める。査定報告書を作成し、まとめ方を学ぶ。学部学生に被検者として協力を依頼し、自分が検査者になって実施したロールシャッハ法・WAIS-Ⅳの資料をもとに実践的な学習を実施する。							
学生の学習 (行動)目標		・ロールシャッハ法を正確に施行することができる。 ・基礎的スコアリングとサマリーを作成できる。 ・量的分析の概要を理解して、被検者の人格特徴を把握し、それに基づいて所見を作成することができる。 ・WAIS-Ⅳを正確に施行することができる。 ・WAIS-Ⅳの基礎的採点と評価点、合成得点、知能指数を算出することができる。 ・知能指数と各合成得点の評価と、合成得点間の差の意味について適切に解釈することができる。 ・WAIS-Ⅳのデータから支援のあり方を検討することができる。							
授業計画(シラバス)									
回	内 容					キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1回	イントロダクション・ロールシャッハ事例検討1・スコア整理・解釈を討議(中村・宮澤)					ロールシャッハの事例検討	予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る		1
2回	ロールシャッハ事例検討2・スコア整理・解釈を討議(中村・宮澤)					ロールシャッハの事例検討	予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る		1
3回	WAIS-Ⅳイントロダクション・事例検討・採点の確認・解釈の検討(引土・小林(大))					WAIS-Ⅳの事例検討	予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る		1
4回	WAIS-Ⅳ・事例検討・採点の確認・解釈の検討(引土・小林(大))					WAIS-Ⅳの事例検討	予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る		1
5回	ロールシャッハ事例検討3・スコア整理・解釈を討議(中村・宮澤)					ロールシャッハの事例検討	予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る		1
6回	ロールシャッハ事例検討4・スコア整理・解釈を討議(中村・宮澤)					ロールシャッハの事例検討	予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る		1
7回	WAIS-Ⅳ・事例検討・採点の確認・解釈の検討(引土・小林(大))					WAIS-Ⅳの事例検討	予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る		1
8回	WAIS-Ⅳ・事例検討・採点の確認・解釈の検討(引土・小林(大))					WAIS-Ⅳの事例検討	予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る		1
9回	ロールシャッハ事例検討5・スコア整理・解釈を討議(中村・宮澤)					ロールシャッハの事例検討	予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る		1
10回	ロールシャッハ事例検討6・スコア整理・解釈を討議(中村・宮澤)					ロールシャッハの事例検討	予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る		1
11回	WAIS-Ⅳ・事例検討・採点の確認・解釈の検討(引土・小林(大))					WAIS-Ⅳの事例検討	予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る		1
12回	WAIS-Ⅳ・事例検討・採点の確認・解釈の検討(引土・小林(大))					WAIS-Ⅳの事例検討	予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る		1
13回	ロールシャッハ事例検討7・スコア整理・解釈を討議(中村・宮澤)					ロールシャッハの事例検討	予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る		1
14回	ロールシャッハ事例検討8・スコア整理・解釈を討議(中村・宮澤)					ロールシャッハの事例検討	予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る		1
15回	WAIS-Ⅳ・事例検討・採点の確認・解釈の検討(引土・小林(大))					WAIS-Ⅳの事例検討	予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る		1
16回	WAIS-Ⅳ・事例検討・採点の確認・解釈の検討(引土・小林(大))					WAIS-Ⅳの事例検討	予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る		1
17回	ロールシャッハ事例検討9・スコア整理・解釈を討議(中村・宮澤)					ロールシャッハの事例検討	予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る		1
18回	ロールシャッハ事例検討10・スコア整理・解釈を討議(中村・宮澤)					ロールシャッハの事例検討	予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る		1
19回	田中ビネー知能検査Ⅴの理論的な背景と実施法(引土)					田中ビネー知能検査Ⅴ	予習:田中ビネー知能検査Ⅴ調べてまとめる。 復習:講義内容を復習する。		1
20回	田中ビネー知能検査Ⅴの理論的な背景と実施法(引土)					田中ビネー知能検査Ⅴ	予習:田中ビネー知能検査Ⅴ調べてまとめる。 復習:講義内容を復習する。		1
21回	ロールシャッハ事例検討11・スコア整理・解釈を討議(中村・宮澤)					ロールシャッハの事例検討	予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る		1
22回	ロールシャッハ事例検討12・スコア整理・解釈を討議(中村・宮澤)					ロールシャッハの事例検討	予習:事例担当者は資料を準備する 復習:ディスカッションの内容を振り返る		1
23回	知的活動を認知処理過程と習得度から測定する検査(引土)					K-ABCⅡ	予習:K-ABCⅡについて調べてまとめる。 復習:講義内容を復習する。		1
24回	知的活動を認知処理過程と習得度から測定する検査(引土)					K-ABCⅡ	予習:K-ABCⅡについて調べてまとめる。 復習:講義内容を復習する。		1
25回	SCT(宮澤)					刺激文、統制	復習:自分の検査結果をもとに小レポートを作成する		1
26回	P-Fスタディ(宮澤)					欲求不満、アグレッションと方向	復習:自分の検査結果をもとに小レポートを作成する		1
27回	発達検査(引土)					新版K式発達検査2020	予習:新版K式発達検査2020について調べてまとめる。 復習:講義内容を復習する。		1
28回	発達検査(引土)					津守式乳幼児精神発達検査	予習:津守式乳幼児精神発達検査について調べてまとめる。 復習:講義内容を復習する。		1
29回	TAT1(宮澤)					ナラティブ、欲求-圧力	復習:自分の検査結果をもとに小レポートを作成する		1
30回	TAT2(宮澤)					時間展望、自己イメージ	復習:自分の検査結果をもとに小レポートを作成する		1
31回									
計									30
成績評価		小テスト	0%	学習成果のフィードバック	事例検討の際にコメントをする。また提出されたレポートに対してフィードバックを行う。				
		試験	0%						
		レポート	50%						
		学習態度	50%	備考	自験例のスコア整理や解釈についてグループディスカッションを行うので、積極的に関心を持って授業に取り組むことが望まれる。担当ケースの発表には準備に時間がかかるため、計画的に取り組むことが必要となる。またSCT、P-Fスタディ、TATのレポートの他、自分がとったロールシャッハ・WAIS-Ⅳについて、レポート提出が求められる。				
		その他	0%						
		計	100%						

テキスト	「新・心理診断法」 片口 安史著 金子書房(1987) ¥9500その他の授業資料はLMSで事前配布します。毎回PCを持参してください。	
テキスト以外の 参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)	1	「力動的心理査定」 馬場禮子編著 岩崎学術出版社(2017)
	2	「ロールシャッハ・テスト:包括システムの基礎と解釈の原理」 ジョン・E. エクスナー 著 金剛出版(2009)
	3	「臨床事例から学ぶTAT解釈の実際」 安香 宏・藤田 宗和編著 新曜社(1997)
	4	「P-Fスタディの理論と実際」 秦一士著 北大路書房(2007)
	5	「精研式文章完成法テスト解説」 佐野勝男; 槇田仁著 金子書房(1991)
	6	「日本版WAIS-IV知能検査法」 David Wechsler著; 日本版WAIS-IV刊行委員会訳編 実施・採点マニュアル 日本文化科学社 (2019)
	7	「日本版WAIS-IV知能検査法」 David Wechsler著; 日本版WAIS-IV刊行委員会訳編 理論・解釈マニュアル 日本文化科学社 (2019)
	8	「田中ビネー知能検査V実施マニュアル」 一般財団法人 田中教育研究所編 (2003)
	9	「日本版K-ABCIIによる解釈の進め方と実践事例」 小野純平、他編 丸善 (2017)
	10	「発達相談と援助:新版K式発達検査2001を用いた心理臨床」 川畑隆、他著 ミネルヴァ書房 (2005)
履修上の注意事項や 学習上の助言など	毎回の出席を厳守すること。 学部学生の検査データを扱うため、資料の保管や守秘には厳重に注意すること。 課題の理解を深めるための情報収集や文章の推敲に生成AIを活用できる。ただし、アセスメントは個別的な体験をもとに書く必要があるため、最終的には自身の思考を含むものとし、AI利用の有無と範囲を明記すること。	

研究科・学 年		臨床心理学研究科 1年							
講義番号	107	教科名	臨床心理基礎実習Ⅰ				授業形態	実験・実習	
単位数	2	必・選	必修	開講時期	前期	担当者	伊藤 真理子・浅田 剛正・引土 達雄		
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照							
講義の概要 (教育目標を含む)		遊び(プレイ)を介して子どもに関わる実習と言語面接のロールプレイを通じ、臨床心理学的援助におけるセラピストの基本姿勢について体験的に学ぶ。 具体的には、幼稚園児と1対1で関わるプレイセラピー実習とロールプレイによるクライアントーセラピスト体験実習を行い、実習内容についてのディスカッションの中でクライアントの見立て、治療関係づくりや関係性の見立て、心理療法の基本原則などについて学んでいく。							
学生の学習 (行動)目標		①心理療法の基本原則を理解することができる ②自らの援助的対人関係の持ち方を省察することができる ③関与観察の中でこども(クライアント)の理解を深めることができる ④自らの臨床体験を言語を用いて表現することができる							
授業計画(シラバス)									
回	内 容					キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1回	オリエンテーション 幼稚園見学 遊戯療法の理論					プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する		0
2回	オリエンテーション 幼稚園見学 遊戯療法の理論					プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する		0
3回	オリエンテーション 遊戯療法の理論					プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する		2
4回	オリエンテーション 遊戯療法の理論					プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する		2
5回	プレイセラピー実習とディスカッション					プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する		2
6回	プレイセラピー実習とディスカッション					プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する		2
7回	プレイセラピー実習とディスカッション					プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する		2
8回	プレイセラピー実習とディスカッション					プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する		2
9回	プレイセラピー実習とディスカッション					プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する		2
10回	プレイセラピー実習とディスカッション					プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する		2
11回	プレイセラピー実習とディスカッション					プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する		2
12回	プレイセラピー実習とディスカッション					プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する		2
13回	プレイセラピー実習とディスカッション					プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する		2
14回	プレイセラピー実習とディスカッション					プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する		2
15回	プレイセラピー実習とディスカッション					プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する		2
16回	プレイセラピー実習とディスカッション					プレイセラピー	〈復習〉実習後にレポートを作成する		2
17回	ロールプレイオリエンテーション ロールプレイ実習とディスカッション					言語面接 ロールプレイ クライアント体験	〈予習〉資料の作成〈復習〉実習後にレポートを作成する		2
18回	ロールプレイ実習とディスカッション					言語面接 ロールプレイ クライアント体験	〈予習〉資料の作成〈復習〉実習後にレポートを作成する		2
19回	ロールプレイ実習とディスカッション					言語面接 ロールプレイ クライアント体験	〈予習〉資料の作成〈復習〉実習後にレポートを作成する		2
20回	ロールプレイ実習とディスカッション					言語面接 ロールプレイ クライアント体験	〈予習〉資料の作成〈復習〉実習後にレポートを作成する		2
21回	ロールプレイ実習とディスカッション					言語面接 ロールプレイ クライアント体験	〈予習〉資料の作成〈復習〉実習後にレポートを作成する		2
22回	ロールプレイ実習とディスカッション					言語面接 ロールプレイ クライアント体験	〈予習〉資料の作成〈復習〉実習後にレポートを作成する		2
23回	ロールプレイ実習とディスカッション					言語面接 ロールプレイ クライアント体験	〈予習〉資料の作成〈復習〉実習後にレポートを作成する		4
24回	ロールプレイ実習とディスカッション					言語面接 ロールプレイ クライアント体験	〈予習〉資料の作成〈復習〉実習後にレポートを作成する		4
25回	ロールプレイ実習とディスカッション					言語面接 ロールプレイ クライアント体験	〈予習〉資料の作成〈復習〉実習後にレポートを作成する		2
26回	ロールプレイ実習とディスカッション					言語面接 ロールプレイ クライアント体験	〈予習〉資料の作成〈復習〉実習後にレポートを作成する		2
27回	ロールプレイ実習とディスカッション					言語面接 ロールプレイ クライアント体験	〈予習〉資料の作成〈復習〉実習後にレポートを作成する		2
28回	ロールプレイ実習とディスカッション					言語面接 ロールプレイ クライアント体験	〈予習〉資料の作成〈復習〉実習後にレポートを作成する		2
29回	実習報告会					プレイセラピー・言語面接	〈予習〉報告会のため各自レジュメの作成 幼稚園に対する報告書の作成		4
30回	実習報告会					プレイセラピー・言語面接	〈予習〉報告会のため各自レジュメの作成 幼稚園に対する報告書の作成		4
計									64
成績評価		小テスト		学習成果のフィードバック	実習中や実習後のディスカッションの中でフィードバックを行う。				
		試験							
		レポート	60%						
		学習態度	40%	備考	学習態度は、実技の到達度、ディスカッションへの参加、実習報告会での発表等の学習態度を総合的に評価する。				
		その他							
		計	100%						
テキスト		なし							

テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)	1	V.M.アクスライン 遊戯療法 岩崎学術出版社
	2	G.L.ランドレス プレイセラピー 関係性の営み 日本評論社
	3	岩田純一 〈わたし〉の発達 乳幼児が語る〈わたし〉の世界 ミネルヴァ書房
	4	D.W.ウィニコット 遊ぶことと現実 岩崎学術出版社
	5	下山晴彦(編) 臨床心理学全書 臨床心理実習論 誠信書房
	6	伊藤良子編著 遊戯療法 様々な領域の事例から学ぶ ミネルヴァ書房
	7	
	8	
	9	
	10	
履修上の注意事項や 学習上の助言など	* 自らが体験したことを、丁寧に振り返り、言語化していくことが必須である。討論への積極的な参加、レポートへの熱心な取り組みを期待する。 * 課題の理解を深めるための情報収集や文章の推敲に生成AIを活用することができる。ただし、提出レポートは必ず自身の思考によるものとし、AI利用の有無と範囲を明記すること。	

研究科・学 年		臨床心理学研究科 1 年						
講義番号	108	教科名	臨床心理基礎実習Ⅱ			授業形態	実験・実習	
単位数	2	必・選	必修	開講時期	後期	担当者	小林 智・宮澤 淳滋	
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照						
講義の概要 (教育目標を含む)		心理実践実習Ⅰ・Ⅱでの心理面接事例担当に先立ち、心理臨床の基礎となる面接について学習する。 ①人と向かい合うことや「聴く」ことの実感を体験的に学習し、言語面接や心理療法の基礎、セラピストとしての基本姿勢を学ぶ。 ②学部学生の希望者をクライアント役とした試行カウンセリングを行ない、限りなく実践に近い実技を通して、個々の面接やカウンセリングの内容について詳細に検討する。 ③インターク面接ロールプレイを通して、初回面接でのクライアントおよび事例の見立て方、報告書の記載の仕方を学ぶ。 以上を通じて、実践場面における専門的な関わり方(being)を身につける。これらは臨床心理センターにおいて実際の事例を担当する上での基礎的訓練として位置づけられる。						
学生の学習 (行動)目標		・一対一の面接場面において、セラピストが備えておくべき基本姿勢を習得する。 ・話を「聴く」ことにまつわる難しさや、生身のやり取りにおいて生じる現象を実感を伴って理解することができる。 ・「共感」や「枠」などといった心理臨床学的な知識を実践的に捉えなおし、ディスカッションの中で検討することができる。						
授業計画(シラバス)								
回	内 容					キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量	準備学習に要する時間
1回	オリエンテーション(1)					試行カウンセリング、心理療法	<予習>検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングの初回を実施し、逐語記録を準備しておく。<復習>検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	2
2回	オリエンテーション(2)					試行カウンセリング、心理療法	<予習>検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングの初回を実施し、逐語記録を準備しておく。<復習>検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	2
3回	試行カウンセリング事例検討①					試行カウンセリング、心理療法	<予習>検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習>検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	2
4回	試行カウンセリング事例検討②					試行カウンセリング、心理療法	<予習>検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習>検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	2
5回	試行カウンセリング事例検討③					試行カウンセリング、心理療法	<予習>検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習>検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	2
6回	試行カウンセリング事例検討④					試行カウンセリング、心理療法	<予習>検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習>検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	2
7回	試行カウンセリング事例検討⑤					試行カウンセリング、心理療法	<予習>検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習>検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	2
8回	試行カウンセリング事例検討⑥					試行カウンセリング、心理療法	<予習>検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習>検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	2
9回	試行カウンセリング事例検討⑦					試行カウンセリング、心理療法	<予習>検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習>検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	2
10回	試行カウンセリング事例検討⑧					試行カウンセリング、心理療法	<予習>検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習>検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	2
11回	試行カウンセリング事例検討⑨					試行カウンセリング、心理療法	<予習>検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習>検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	2
12回	試行カウンセリング事例検討⑩					試行カウンセリング、心理療法	<予習>検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習>検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	2
13回	試行カウンセリング事例検討⑪					試行カウンセリング、心理療法	<予習>検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習>検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	2
14回	試行カウンセリング事例検討⑫					試行カウンセリング、心理療法	<予習>検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習>検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	2
15回	試行カウンセリング事例検討⑬					試行カウンセリング、心理療法	<予習>検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習>検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	2
16回	試行カウンセリング事例検討⑭					試行カウンセリング、心理療法	<予習>検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習>検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	2
17回	試行カウンセリング事例検討⑮					試行カウンセリング、心理療法	<予習>検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習>検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	2
18回	試行カウンセリング事例検討⑯					試行カウンセリング、心理療法	<予習>検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習>検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	2
19回	試行カウンセリング事例検討⑰					試行カウンセリング、心理療法	<予習>検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習>検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	2
20回	試行カウンセリング事例検討⑱					試行カウンセリング、心理療法	<予習>検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習>検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	2
21回	試行カウンセリング事例検討⑲					試行カウンセリング、心理療法	<予習>検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習>検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	2
22回	試行カウンセリング事例検討㉐					試行カウンセリング、心理療法	<予習>検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習>検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	2
23回	試行カウンセリング事例検討㉑					試行カウンセリング、心理療法	<予習>検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習>検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	2
24回	試行カウンセリング事例検討㉒					試行カウンセリング、心理療法	<予習>検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。<復習>検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	2

25回	試行カウンセリング事例検討㉓	試行カウンセリング、心理療法	＜予習＞検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。＜復習＞検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	2
26回	試行カウンセリング事例検討㉔	試行カウンセリング、心理療法	＜予習＞検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。＜復習＞検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	2
27回	試行カウンセリング事例検討㉕	試行カウンセリング、心理療法	＜予習＞検討会までに学部学生を対象とした試行カウンセリングを実施し、逐語記録を準備しておく。＜復習＞検討後にはレポートを作成し提出すること。議論の内容を整理しノートに記録しておくこと。	2
28回	試行カウンセリングについての振り返り①	試行カウンセリング、心理療法	＜予習＞検討会までにこれまでの試行カウンセリングについての提出済みSVレポートを確認し、完了した試行カウンセリングすべての逐語記録を準備しておく。＜復習＞検討後にはレポートを作成し提出する。	2
29回	試行カウンセリングについての振り返り②	試行カウンセリング、心理療法	＜予習＞検討会までにこれまでの試行カウンセリングについての提出済みSVレポートを確認し、完了した試行カウンセリングすべての逐語記録を準備しておく。＜復習＞検討後にはレポートを作成し提出する。	2
30回	試行カウンセリングについての振り返り③	試行カウンセリング、心理療法	＜予習＞検討会までにこれまでの試行カウンセリングについての提出済みSVレポートを確認し、完了した試行カウンセリングすべての逐語記録を準備しておく。＜復習＞検討後にはレポートを作成し提出する。	2
計				60
成 績 評 価	小テスト		学習成果のフィードバック	事例発表者の資料のまとめ方や、出席者の発言について授業内で教員からコメントが与えられる。
	試験			
	レポート	50%		
	学習態度	50%	備考	ほぼ毎回のレポート提出が義務付けられる。 各回のディスカッションへの参加態度だけでなく、その他として本授業時間外実技への取り組みや、実習予定のスケジュール・連絡の自己管理についても評価する。
	その他			
	計	100%		
テ キ ス ト	不要			
テキスト以外の 参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)	1	河合 隼雄 『カウンセリングを語る』上、下 講談社＋α文庫		
	2	河合 隼雄 『カウンセリングを考える』上、下 創元こころ文庫		
	3	河合 隼雄 『カウンセリングの実践問題』誠信書房 1970		
	4	河合 隼雄 『新版 心理療法論考』創元社 2013		
	5	鐘 幹八郎 『試行カウンセリング』誠信書房 1977		
	6	鐘 幹八郎、名島潤慈 『心理臨床家の手引き(第4版)』誠信書房 2018		
	7	土居 健郎 『新版 方法としての面接 臨床家のために』医学書院 1977		
	8	馬場禮子 『精神分析的な心理療法の実践』岩崎学術出版社 1999		
	9			
	10			
履修上の注意事項や 学習上の助言など	カウンセリングや心理療法に関する基礎知識を事前に学習しておくことが必要となる。 また、各回のディスカッションでの積極的な発言を期待する。 課題の理解を深めるための情報収集や文章の推敲に生成AIを活用できる。ただし、収集された情報にハルシネーションリスクがあることを理解し、情報源を必ず確認すること。また、課題作成に直接的に引用する場合は、プロンプトと引用の範囲を明記すること。実際の臨床においてはクライアントに応答するのはAIではなく自分自身であることを自覚した上で課題にどの程度AIを活用するかを検討すること。			

研究科・学 年		臨床心理学研究科 1 年									
講義番号	201	教科名	臨床心理演習Ⅰ					授業形態	演習		
単位数	4	必・選	選必	開講時期	通年	担当者	浅田剛正・本間恵美子・伊藤真理子・宮澤淳滋・引土達雄・小林 智・小林大介・○真壁あさみ・○佐藤修哉				
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照									
講義の概要 (教育目標を含む)		臨床心理実習に参加する準備教育として、臨床心理士としてクライアントに接する基本的な技法と態度を学ぶ。 ① 附属臨床心理センターでの業務について実際的な内容を学び、社会に開かれた相談機関としての臨床心理的地域援助の実際や専門的倫理について理解を深める。 ② 臨床心理の実践で用いられ、特に臨床心理センターでの担当事例において直接クライアントに実施する可能性のある技法の扱いに習熟し、クライアントに益する形で心理臨床場面での活用ができるようになる。 ③ ファンタジーグループ、臨床動作法、グループワークといった専門的対人支援における介入法について、自身の体験や身体感覚を通して学ぶ。 ④ 臨床心理演習Ⅱ(M2配当)のケースカンファレンスに参加し、心理臨床の実践例に触れながらディスカッションを行う。守秘義務を遵守しつつ、個別的心理臨床事例の実際に触れる。									
学生の学習 (行動)目標		・心理臨床実践に関わる業務として必要な技法、知識を身につける。 ・各技法の習得を通して、全てに共通する心理臨床家としての基本姿勢や専門的視点を理解する。									
授業計画(シラバス)											
回	内 容					キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量			準備学習に要する時間	
1回	臨床心理センター業務演習①(担当:伊藤・宮澤・本間)					臨床心理的地域援助・倫理	臨床心理センター業務についてマニュアル等を十分に理解できるよう復習すること。			2	
2回	臨床心理センター業務演習②(担当:伊藤・宮澤・本間)					臨床心理的地域援助・倫理	臨床心理センター業務についてマニュアル等を十分に理解できるよう復習すること。			2	
3回	言語連想法①(担当:浅田)					言語連想法・コンプレックス	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。演習後にレポートの提出を求める(復習)。			2	
4回	言語連想法②(担当:浅田)					言語連想法・コンプレックス	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。演習後にレポートの提出を求める(復習)。			2	
5回	臨床動作法①(担当:本間)					動作・身体	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。			2	
6回	臨床動作法②(担当:本間)					動作・身体	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。演習後にレポートの提出を求める(復習)。			2	
7回	バウムテスト・風景構成法(担当:宮澤)					バウムテスト・風景構成法	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。			2	
8回	バウムテスト・風景構成法(担当:宮澤)					バウムテスト・風景構成法	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。			2	
9回	心理臨床ケースカンファレンス					事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。			2	
10回	心理臨床ケースカンファレンス					事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。			2	
11回	ファンタジーグループ演習(担当:伊藤・浅田・真壁・小林(大)・宮澤)					フィンガーペインティング・コラージュ・ファンタジーグループ	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について復習しておくことが望ましい。			2	
12回	ファンタジーグループ演習(担当:伊藤・浅田・真壁・小林(大)・宮澤)					フィンガーペインティング・コラージュ・ファンタジーグループ	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。			2	
13回	ファンタジーグループ演習(担当:伊藤・浅田・真壁・小林(大)・宮澤)					フィンガーペインティング・コラージュ・ファンタジーグループ	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。			2	
14回	ファンタジーグループ演習(担当:伊藤・浅田・真壁・小林(大)・宮澤)					フィンガーペインティング・コラージュ・ファンタジーグループ	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。			2	
15回	心理臨床ケースカンファレンス					事例検討・ケースカンファレンス	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について復習しておくことが望ましい。			2	
16回	心理臨床ケースカンファレンス					事例検討・ケースカンファレンス	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。			2	
17回	グループ体験①(担当:引土・小林(大))					集団力動・リーダーシップ・役割・連携	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。			2	
18回	グループ体験②(担当:引土・小林(大))					集団力動・リーダーシップ・役割・連携	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。			2	
19回	心理臨床ケースカンファレンス					事例検討・ケースカンファレンス	臨床心理センター業務についてマニュアル等を十分に理解できるよう復習すること。			2	
20回	心理臨床ケースカンファレンス					事例検討・ケースカンファレンス	臨床心理センター業務についてマニュアル等を十分に理解できるよう復習すること。			2	
21回	臨床心理センター業務演習①(担当:伊藤・宮澤・本間)					電話対応・来談記録	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。			2	
22回	臨床心理センター業務演習②(担当:伊藤・宮澤・本間)					電話対応・来談記録	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。			2	
23回	心理臨床ケースカンファレンス					事例検討・ケースカンファレンス	臨床心理センター業務についてマニュアル等を十分に理解できるよう復習すること。			2	
24回	心理臨床ケースカンファレンス					事例検討・ケースカンファレンス	臨床心理センター業務についてマニュアル等を十分に理解できるよう復習すること。			2	
25回	臨床心理センター業務演習③(担当:伊藤・宮澤・本間)					インタビュー面接・ケースフォーミュレーション	臨床心理センター業務についてマニュアル等を十分に理解できるよう復習すること。			2	
26回	臨床心理センター業務演習④(担当:伊藤・宮澤・本間・浅田)					スーパーヴィジョン	臨床心理センター業務についてマニュアル等を十分に理解できるよう復習すること。			2	
27回	心理臨床ケースカンファレンス					事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。			2	
28回	心理臨床ケースカンファレンス					事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。			2	
29回	箱庭療法①(担当:伊藤)					箱庭療法	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。			2	
30回	箱庭療法②(担当:伊藤)					箱庭療法	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。			2	
31回	心理臨床ケースカンファレンス					事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。			2	
32回	心理臨床ケースカンファレンス					事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。			2	
33回	箱庭療法③(担当:伊藤)					箱庭療法	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。			2	
34回	箱庭療法④(担当:伊藤)					箱庭療法	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。			2	
35回	心理臨床ケースカンファレンス					事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。			2	
36回	心理臨床ケースカンファレンス					事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。			2	
37回	箱庭療法⑤(担当:伊藤)					箱庭療法	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。			2	
38回	箱庭療法⑥(担当:伊藤)					箱庭療法	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。			2	

39回	心理臨床ケースカンファレンス	事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。	2
40回	心理臨床ケースカンファレンス	事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。	2
41回	動的家族画・スクイグル法①(担当:引土・宮澤)	動的家族画・スクイグル	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。演習後にレポートの提出を求める(復習)。	2
42回	動的家族画・スクイグル法②(担当:引土・宮澤)	動的家族画・スクイグル	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。演習後にレポートの提出を求める(復習)。	2
43回	心理臨床ケースカンファレンス	事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。	2
44回	心理臨床ケースカンファレンス	事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。	2
45回	臨床描画法①(担当:浅田)	風景構成法、イメージ体験と関係性	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。	2
46回	臨床描画法②(担当:浅田)	風景構成法、解釈と見立て	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。	2
47回	臨床描画法③(担当:浅田)	MSSM、ラポール形成	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。	2
48回	臨床描画法④(担当:浅田)	MSSM、遊びと関係性	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。	2
49回	心理臨床ケースカンファレンス	事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。	2
50回	心理臨床ケースカンファレンス	事例検討・ケースカンファレンス	守秘義務を守りながら、事例について各自の学びをノート等で整理して復習すること。	2
51回	コラージュ療法①(担当:真壁)	コラージュ療法	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい。演習後にレポートの提出を求める。	2
52回	コラージュ療法②(担当:真壁)	コラージュ療法	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。演習後にレポートの提出を求める(復習)。	2
53回	インテークロールプレイ演習①【ベーシック】(担当:引土・佐藤)	インテーク(受理)面接、面接契約	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。	2
54回	インテークロールプレイ演習②【ベーシック】(担当:引土・佐藤)	インテーク(受理)面接、面接契約	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。	2
55回	インテークロールプレイ演習③【ディレクティブ・セラピー】(担当:小林(智)・小林(大))	インテーク(受理)面接、ディレクティブ・セラピー	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。	2
56回	インテークロールプレイ演習④【ディレクティブ・セラピー】(担当:小林(智)・小林(大))	インテーク(受理)面接、ディレクティブ・セラピー	適宜参考書を参照して、該当テーマについての基礎知識について事前に確認しておくことが望ましい(予習)。	2
57回				
58回				
59回				
60回				
計				112
成績評価	小テスト		学習成果のフィードバック	各演習における実施内容やプレゼンテーションに対しては、随時教員からのフィードバックがなされる。 また、レポート等は適宜講義内容に活かされ、適宜コメントが返される。
	試験			
	レポート	40%		
	学習態度	40%	備考	レポート:テーマごとに各担当教員からレポート提出が課され、その達成内容が評価される。 学習態度:各回の演習への参加態度は、ディスカッションへの貢献度、臨床実践を想定した取り組み態度などを評価する。 その他:演習に向けた事前の準備状況や、演習を通じた技能の習得度を評価の対象に含める。
	その他	20%		
	計	100%		
テキスト	共通したテキストはなし。参考書や担当教員からの指示を参考にし、必要なものを適宜購入すること。			
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)	1	心理臨床家の手引 第3版、鐘 幹八郎・名島 清慈(編著)、誠信書房、2010		
	2	よくわかる心理臨床 皆藤章編、ミネルヴァ書房、2007		
	3	イメージの心理学 河合隼雄、青土社、1991		
	4	心理臨床実践におけるスーパーヴィジョン: スーパーヴィジョン学の構築 皆藤章他編、日本評論社、2014		
	5	箱庭療法入門 河合隼雄、誠信書房、1969		
	6	心理臨床家のための「事例研究」の進め方、山本力・鶴田和美(編著)、北大路書房、2001		
	7	風景構成法の現在(いま) 皆藤章・浅田剛正(編著)、誠信書房、2023		
	8			
	9			
	10			
履修上の注意事項や 学習上の助言など	・各演習内容・テーマについて、単に知識をつけるだけでなく、主体的な学びを通して自ら専門職として実施できるまで習得することが期待されている。随時、専門書や関連する研究論文などを自身で検索し、問題意識をもって学んでいくこと。 ・原則として、本授業に関わる発表資料やレポートの文章はAIで作成せず、自分の言葉で記述すること。ただし、関連概念や理論を参照する際のAI活用は可とする。 ・演習内容の順序は変更することがある。また、臨床心理演習Ⅱとの組み合わせで変則的になるため、別途配布する日程表を参照すること。			

研究科・学 年		臨床心理学研究科 1 年							
講義番号	203	教科名	心理実践実習Ⅰ			授業形態	実験・実習		
単位数	4	必・選	選必	開講時期	通年	担当者	伊藤真理子・本間恵美子・浅田剛正・小林智・小林大介・宮澤淳滋・引土達雄 ○真壁あさみ・○齋藤恵美・○佐藤修哉・☆中村協子・☆佐藤亨		
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照□							
講義の概要 (教育目標を含む)		本学大学院附属臨床センターにおける会議参加、ケース担当、受付業務等の実習及び外部機関における見学実習を通じて、心理に関する支援を必要とする者(要支援者)等とのコミュニケーションのあり方や心理面接、心理検査についての知識と技能を身に付け、要支援者等の理解とニーズの把握及び支援方針の策定、チームアプローチや多職種連携、地域連携等について学ぶことを目的とする。							
学生の学習 (行動)目標		・心理的な支援を必要とする人と適切にコミュニケーションを取ることができる。 ・心理的支援を必要とする人との心理面接を指導を受けながら実施することができる。 ・心理的な支援を必要とする人に対する心理検査を、指導を受けながら実施することができる。 ・心理的な支援を必要とする人のニーズについて理解し、説明することができる。 ・心理的な支援を必要とする人への支援について、チームアプローチや多職種連携、地域連携の必要性について理解し、説明することができる。							
授業計画(シラバス)									
回	内 容					キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1-2回	臨床心理センター実習:全体オリエンテーション					臨床心理センター、倫理	＜復習＞臨床心理センターの位置づけや実習を行うに当たっての心構えを復習する。		1
3-4回	臨床心理センター実習:インテーク実習〔インテーク会議参加〕					インテーク会議、ケース理解	＜復習＞インテーク会議に提出されたケースについて、自分なりに考えをまとめる。		2
5-6回	臨床心理センター実習:インテーク実習〔インテーク会議参加〕					インテーク会議、ケース理解	＜復習＞インテーク会議に提出されたケースについて、自分なりに考えをまとめる。		2
7-8回	臨床心理センター実習:インテーク実習〔インテーク会議参加〕					インテーク会議、ケース理解	＜復習＞インテーク会議に提出されたケースについて、自分なりに考えをまとめる。		2
9-10回	臨床心理センター実習:インテーク実習〔インテーク会議参加〕					インテーク会議、ケース理解	＜復習＞インテーク会議に提出されたケースについて、自分なりに考えをまとめる。		2
11-12回	臨床心理センター実習:インテーク実習〔インテーク会議参加〕					インテーク会議、ケース理解	＜復習＞インテーク会議に提出されたケースについて、自分なりに考えをまとめる。		2
13-14回	臨床心理センター実習:インテーク実習〔インテーク会議参加〕					インテーク会議、ケース理解	＜復習＞インテーク会議に提出されたケースについて、自分なりに考えをまとめる。		2
15-16回	臨床心理センター実習:電話受付実習					電話受付、要支援者	＜予習＞臨床心理センターのシステムや電話受付の方法について確認する。 ＜復習＞実習体験や指導内容について振り返る。		4
17-18回	臨床心理センター実習:電話受付実習					電話受付、要支援者	＜予習＞臨床心理センターのシステムや電話受付の方法について確認する。 ＜復習＞実習体験や指導内容について振り返る。		4
19-20回	臨床心理センター実習:電話受付実習					電話受付、要支援者	＜予習＞臨床心理センターのシステムや電話受付の方法について確認する。 ＜復習＞実習体験や指導内容について振り返る。		4
21-22回	臨床心理センター実習:電話受付実習					電話受付、要支援者	＜予習＞臨床心理センターのシステムや電話受付の方法について確認する。 ＜復習＞実習体験や指導内容について振り返る。		4
23-24回	臨床心理センター実習:電話受付実習					電話受付、要支援者	＜予習＞臨床心理センターのシステムや電話受付の方法について確認する。 ＜復習＞実習体験や指導内容について振り返る。		4
25-26回	臨床心理センター実習:インテーク実習〔インテーク面接陪席〕					インテーク面接、ケース理解、査定	＜予習＞電話受付記録等を読み、ケースについて予め考えておく。 ＜復習＞インテーク面接の記録を作成、指導を受けインテーク会議で報告する。		8
27-28回	臨床心理センター実習:インテーク実習〔インテーク面接陪席〕					インテーク面接、ケース理解、査定	＜予習＞電話受付記録等を読み、ケースについて予め考えておく。 ＜復習＞インテーク面接の記録を作成、指導を受けインテーク会議で報告する。		8
29-30回	臨床心理センター実習:インテーク実習〔インテーク面接陪席〕					インテーク面接、ケース理解、査定	＜予習＞電話受付記録等を読み、ケースについて予め考えておく。 ＜復習＞インテーク面接の記録を作成、指導を受けインテーク会議で報告する。		8
31-32回	臨床心理センター実習:ケース担当実習					心理面接、プレイセラピー、SV	＜予習＞これまでの面接を振り返っておく。 ＜復習＞面接の内容を振り返り、記録にまとめる。		4
33-34回	臨床心理センター実習:ケース担当実習					面接、プレイセラピー、SV	＜予習＞これまでの面接を振り返っておく。 ＜復習＞面接の内容を振り返り、記録にまとめSVを受ける。		4
35-36回	臨床心理センター実習:ケース担当実習					面接、プレイセラピー、SV	＜予習＞これまでの面接を振り返っておく。 ＜復習＞面接の内容を振り返り、記録にまとめSVを受ける。		4
37-38回	臨床心理センター実習:ケース担当実習					面接、プレイセラピー、SV	＜予習＞これまでの面接を振り返っておく。 ＜復習＞面接の内容を振り返り、記録にまとめSVを受ける。		4
39-40回	臨床心理センター実習:ケース担当実習					面接、プレイセラピー、SV	＜予習＞これまでの面接を振り返っておく。 ＜復習＞面接の内容を振り返り、記録にまとめSVを受ける。		4
41-42回	臨床心理センター実習:ケース担当実習					面接、プレイセラピー、SV	＜予習＞これまでの面接を振り返っておく。 ＜復習＞面接の内容を振り返り、記録にまとめSVを受ける。		4
43-44回	臨床心理センター実習:ケース担当実習					面接、プレイセラピー、SV	＜予習＞これまでの面接を振り返っておく。 ＜復習＞面接の内容を振り返り、記録にまとめSVを受ける。		4
45-46回	臨床心理センター実習:ケース担当実習					面接、プレイセラピー、SV	＜予習＞これまでの面接を振り返っておく。 ＜復習＞面接の内容を振り返り、記録にまとめSVを受ける。		4
47-48回	臨床心理センター実習:ケース担当実習					面接、プレイセラピー、SV	＜予習＞これまでの面接を振り返っておく。 ＜復習＞面接の内容を振り返り、記録にまとめSVを受ける。		4
49-50回	臨床心理センター実習:ケース担当実習					面接、プレイセラピー、SV	＜予習＞これまでの面接を振り返っておく。 ＜復習＞面接の内容を振り返り、記録にまとめSVを受ける。		4
51-52回	臨床心理センター実習:ケース担当実習					面接、プレイセラピー、SV	＜予習＞これまでの面接を振り返っておく。 ＜復習＞面接の内容を振り返り、記録にまとめSVを受ける。		4
53-54回	臨床心理センター実習:ケース担当実習					面接、プレイセラピー、SV	＜予習＞これまでの面接を振り返っておく。 ＜復習＞面接の内容を振り返り、記録にまとめSVを受ける。		4
55-56回	外部機関実習:見学実習(福祉領域)					児童相談所、児童福祉	＜予習＞実習先の位置づけや実習先で求められる行動について、予め学んでおく。 ＜復習＞実習先で体験を振り返り、報告書を作成する。		5
57-58回	外部機関実習:見学実習(司法犯罪領域)					少年鑑別所、非行少年	＜予習＞実習先の位置づけや実習先で求められる行動について、予め学んでおく。 ＜復習＞実習先で体験を振り返り、報告書を作成する。		5
59-60回	外部機関実習:見学実習(産業労働領域)					就労支援、若者	＜予習＞実習先の位置づけや実習先で求められる行動について、予め学んでおく。 ＜復習＞実習先で体験を振り返り、報告書を作成する。		5
計									120
成績評価		小テスト		学習成果のフィードバック		・それぞれの実習の振り返りや報告会等において、実習担当教員や実習先の実習指導者がフィードバックを行う。			
		試験							
		レポート	30%						
		学習態度	70%	備考		・成績評価は、様々な実習における評価を総合的に勘案する。 ・学習態度の評価基準は、実習への取り組みの態度・目的意識、担当教員や実習指導者との検討内容と理解度、臨床事例に対する理解度と対応などである。			
		その他							
		計	100%						

テ キ ス ト	・特になし。	
テキスト以外の 参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)	1	臨床心理士をめざす大学院生のための精神科実習ガイド、津川律子・橋玲子、誠信書房、2009
	2	レクチャー心理臨床入門、一丸藤太郎・栗原和彦編、創元社、2005
	3	カウンセリングの実際問題、河合隼雄、誠信書房、1970
	4	心理臨床家の手引き第3版、鎗幹八郎・名島潤慈編著、誠信書房、2010
	5	臨床心理実習論(臨床心理学全書第4巻)、下山 晴彦 編、誠信書房、2003
	6	方法としての面接―臨床家のために、土居 健郎、医学書院、1992
	7	面接法、熊倉伸宏、新興医学出版社、2002
	8	
	9	
	10	
履修上の注意事項や 学習上の助言など	情報収集等に生成AIを活用することができる。ただし、実習に対する考察等は必ず自身の思考によるものとし、レポートや報告書などの提出物においてはAI利用の有無と範囲を明記すること。	

研究科・学 年		臨床心理学研究科 1年							
講義番号	205	教科名	臨床心理学研究法特論				授業形態	講義	
単位数	2	必・選	選必	開講時期	前期	担当者	碓井 真史・本間 恵美子・浅田 剛正		
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照							
講義の概要 (教育目標を含む)		日本臨床心理士会によれば、臨床心理士の4つの専門的技術として、アセスメント、面接、地域援助、そして研究があげられている。臨床と研究は、本来車の両輪とも言えるものだろう。研究は、研究者のためのものだけではなく、臨床家の臨床実践をより豊かに行うためのものでもある。この講義では、臨床心理学研究法を学び、将来の臨床心理士としての活動に役立てるとともに、修士論文作成のために役立つ知識と技術を学ぶことを目標とする。講義の前半は、特に心理学全般に関わる研究法を、後半は特に臨床心理学独自の研究法について学んでいく。							
学生の学習 (行動)目標		研究法の基礎を学び、実際にデータを取得し、論文が書ける知識と技術を身につける。							
授業計画(シラバス)									
回	内 容					キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1回	科学とは何か・なぜ研究をするのか					科学史・科学哲学・文献研究	各研究法の基礎を予習するとともに、各自の研究テーマに即し考えること		4
2回	「問題」テーマの絞り方・研究史のまとめ方					文献研究・研究史・リサーチクエスチョン	各研究法の基礎を予習するとともに、各自の研究テーマに即し考えること		4
3回	「方法」「結果」「考察」					データ収集・データ分析	各研究法の基礎を予習するとともに、各自の研究テーマに即し考えること		4
4回	心理学論文の書き方					論文執筆作法	各研究法の基礎を予習するとともに、各自の研究テーマに即し考えること		4
5回	口頭発表の方法					プレゼンテーション・コミュニケーション	各研究法の基礎を予習するとともに、各自の研究テーマに即し考えること		4
6回	質問紙の信頼性と妥当性					信頼性、妥当性	各研究法の基礎を予習するとともに、各自の研究テーマに即し考えること		4
7回	回帰分析					回帰分析	各研究法の基礎を予習するとともに、各自の研究テーマに即し考えること		4
8回	因子分析					因子分析	各研究法の基礎を予習するとともに、各自の研究テーマに即し考えること		4
9回	クラスター分析、量的分析の実際					クラスター分析	各研究法の基礎を予習するとともに、各自の研究テーマに即し考えること		4
10回	事例研究法とは					論点の設定、関与的観察、間主観的普遍性	心理臨床家としての事例研究法の意義と自身がこれから学ぶべき点について考えること		4
11回	事例研究の実際①					事例の記述方法	事例研究論文を1本精読し、研究法として視点から要点を整理すること		4
12回	事例研究の実際②					守秘義務と研究倫理	事例研究論文を1本精読し、研究法として視点から要点を整理すること		4
13回	事例研究の実際③					事例研究の実践的活用と波及性	事例研究論文を1本精読し、研究法として視点から要点を整理すること		4
14回	事例研究の実際④					臨床心理事例研究の目的と意義	事例研究論文を1本精読し、研究法として視点から要点を整理すること		4
15回	まとめ 臨床心理学研究の困難さと重要性					実践研究の意義	各研究法の特徴を整理し、今後の各自の研究テーマに即してその意義について考えること		4
16回	定期試験								
計									60
成 績 評 価		小テスト		学習成果のフィードバック	各自の発表に対するコメント				
		試験	50.00%						
		レポート	50.00%						
		学習態度		備考					
		その他							
		計	100%						
テキ ス ト		特定のテキストは使用しない。下記参考書を適宜参照すること。							
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)		1	松井豊著『三訂版 心理学論文の書き方 卒業論文や修士論文を書くために』2022						
		2	石原 宏 著『臨床心理学研究法特論〔新訂〕(放送大学大学院教材)』2023						
		3	鎌原雅彦、他著『心理学マニュアル 質問紙法』北大路書房 1998						
		4	米山和雄・山崎貞政著『SPSS統計解析マニュアル』北大路書房 2010						
		5	佐藤郁哉著『社会調査の考え方(上・下)』東京大学出版会 2015						
		6	豊田秀樹、他『原因を探る統計学：共分散構造分析入門』講談社 1992						
		7	小塩真司著『研究事例で学ぶSPSSとAmosによる心理・調査データ解析』東京図書 2012						
		8	安藤清志、他著『新版 社会心理学研究入門』東京大学出版会 2009						
		9	山本力『事例研究の考え方と戦略 心理臨床実践の省察的アプローチ』創元社 2018						
		10							
履修上の注意事項や学習上の助言など		本科目では、課題の理解を深めるための情報収集や文章の推敲に生成AIを活用できる。ただし、レポートの核となる部分は自身の思考によるものとする。							

研究科・学 年		臨床心理学研究科 1 年							
講義番号	206	教科名	心理学研究法演習				授業形態	演習	
単位数	2	必・選	選必	開講時期	前期	担当者	○新國 佳祐		
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照							
講義の概要 (教育目標を含む)		臨床心理学研究を進めるために、その基礎となる心理学研究法に習熟することを目的とする。特に、心理学研究を行う上では必須であるデータの統計的分析手法に関して具体的な演習をまじえながら習得し、データの収集および得られたデータの統計解析を独力で行うための基礎的な知識とスキルを身につけると同時に、学術論文等に記載された統計解析結果を適切に読み取ることができるようになることを目標とする。講義では、主に実験や質問紙調査によって得られる量的データ(数値データ)の解析に用いられる基礎的分析手法を扱う。							
学生の学習 (行動)目標		・実験・調査計画に合わせて適切な統計的検定を選択して実施し、その結果を誤りなく記述することができる。 ・数量データを適切に視覚化でき、かつ視覚化されたデータが示す意味を正確に読み取ることができる。 ・数値要約と分析の方法を理解し、研究論文の読解や研究計画の立案に生かすことができる。							
授業計画(シラバス)									
回	内 容					キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量	準備学習に要する時間	
1回	イントロダクション:心理学における数的データと実験・調査計画					条件設定、標本抽出、尺度判定	復習:配布資料を見直し、講義内容についてノートにまとめること。	4	
2回	データの入力と管理					尺度水準、コーディング、欠損値	復習:配布資料を見直し、講義内容についてノートにまとめること。	4	
3回	記述統計					代表値、平均値、標準偏差、ヒストグラム、外れ値、度数分布表	復習:配布資料を見直し、講義内容についてノートにまとめること。	4	
4回	t検定					平均値差、t検定、対応なし、対応あり、効果量	復習:配布資料を見直し、講義内容についてノートにまとめること。	4	
5回	分散分析(1要因)					分散分析、対応なし、対応あり、多重比較	復習:配布資料を見直し、講義内容についてノートにまとめること。	4	
6回	分散分析(2要因以上)					要因計画、主効果	復習:配布資料を見直し、講義内容についてノートにまとめること。	4	
7回	分散分析(2要因以上)					交互作用、単純主効果、単純交互作用	復習:配布資料を見直し、講義内容についてノートにまとめること。	4	
8回	質問紙尺度データの処理					逆転項目、尺度得点、信頼性係数	復習:配布資料を見直し、講義内容についてノートにまとめること。	4	
9回	相関分析					散布図、共分散、相関係数、無相関検定	復習:配布資料を見直し、講義内容についてノートにまとめること。	4	
10回	単回帰分析					説明変数、目的変数、回帰係数、決定係数、回帰直線	復習:配布資料を見直し、講義内容についてノートにまとめること。	4	
11回	重回帰分析					偏回帰係数、多重共線性、ロジスティック回帰分析	復習:配布資料を見直し、講義内容についてノートにまとめること。	4	
12回	カイ二乗分析					クロス集計表、観測度数、期待度数、独立性、正確確率検定	復習:配布資料を見直し、講義内容についてノートにまとめること。	4	
13回	因子分析					構成概念、因子、共通性、独自性、因子負荷	復習:配布資料を見直し、講義内容についてノートにまとめること。	4	
14回	その他の高度な分析					共分散構造分析、パス解析、混合効果モデル	復習:配布資料を見直し、講義内容についてノートにまとめること。	4	
15回	検定力分析					検定力、第1種の誤り、第2種の誤り、有意水準、効果量、サンプルサイズ	復習:配布資料を見直し、講義内容についてノートにまとめること。	4	
16回									
計								60	
成 績 評 価		小テスト		学習成果のフィードバック	・授業内作業の成果物(データの分析結果等)や宿題の提出物に対して、教員がその場でコメントをする。				
		試験							
		レポート	60%						
		学習態度	40%	備考	・レポートは期間中1回課す。内容は、擬似データの分析を自身で行い、結果を論文形式でまとめるものを予定している。 ・学習態度は、グループワークや意見交換など授業へ積極的に参加する姿勢や授業中の発言・態度、演習への取組状況を元に評価する。				
		その他							
		計	100%						
テ キ ス ト		なし							
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)		1	R!によるやさしい統計学、山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎、オーム社、2008						
		2	ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法、田中敏・山際勇一郎、教育出版、1992						
		3	よくわかる心理統計(やわからかアカデミズム・わかるシリーズ)、山田 剛史・村井 潤一郎、ミネルヴァ書房、2004						
		4	心理学のためのデータ解析テクニカルブック、森敏昭・吉田寿夫、北大路書房、1990						
		5	本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本、吉田寿夫、北大路書房、1998						
		6	Excelでやさしく学ぶ統計解析、石村貞夫他、東京図書、2013						
		7							
		8							
		9							
		10							
履修上の注意事項や学習上の助言など		授業には毎回ExcelのインストールされたPCを持参すること。							

研究科・学 年		臨床心理学研究科 1年						
講義番号	207	教科名	精神保健医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）				授業形態	講義
単位数	2	必・選	選必	開講時期	前期集中	担当者	浅田 剛正・〇関谷 昭吉・☆朴 秀賢	
DP（ディプロマ・ポリシー）との関連		1) 臨床心理学の専門家としての臨床実践力および倫理観を身につけている。2) 臨床実践に基づいた臨床心理学的知識を視点・心理学及び関連領域の高度専門的知識を身につけている。						
講義の概要（教育目標を含む）		臨床心理学と関連する精神保健医学について知識を深めることを目的とする。 精神保健医学の方法論、診断学、症状学、面接、精神疾患の基礎知識、精神科薬物療法を中心に学ぶ。 臨床心理学と関係が深い心身症および心身両面に関わる疾患、症状、病態、問題行動などについての精神医学的知識や対応、また、精神科臨床や精神保健領域において、臨床心理家が出会うことの多い支援現場の実際と法規、制度を実践現場の実際に照らしながら学ぶ。						
学生の学習（行動）目標		精神疾患および薬物療法についての基礎知識を獲得する。基礎知識をもとに臨床心理士、公認心理師として要請される精神科や精神保健福祉との連携について学ぶ。						
授業計画（シラバス）								
回	内 容				キーワード	準備学習（予習・復習）の内容と分量		準備学習に要する時間
1回	臨床心理と精神医療（授業オリエンテーション、医学的治療と心理支援）：浅田				医学的治療と心理支援、アセスメントと症候論、病い	既習の精神保健医学の知識の予習、配布プリントの復習		4
2回	医療領域における他職種連携（精神科医療現場の実際）：朴				チーム医療、多職種連携、精神科医療現場の実際	テキストと配布プリントの予習、レポート課題による復習		4
3回	精神科診断学：朴				外因性精神疾患、内因性精神疾患、心因性精神疾患、操作的診断基準	テキストと配布プリントの予習、レポート課題による復習		4
4回	精神疾患の薬物治療：朴				抗精神病薬、抗うつ薬、気分安定薬、抗不安薬、睡眠薬	テキストと配布プリントの予習、レポート課題による復習		4
5回	精神疾患の非薬物治療：朴				ニューロモデュレーション、心理療法、認知行動療法、作業療法、リハビリテーション	テキストと配布プリントの予習、レポート課題による復習		4
6回	統合失調症群の理解と支援：朴				陽性症状 陰性症状、前駆症状、回復過程	テキストと配布プリントの予習、レポート課題による復習		4
7回	気分症群の理解と支援：朴				うつ病、双極1型、双極2型	テキストと配布プリントの予習、レポート課題による復習		4
8回	心因性精神疾患の理解と支援：朴				不安症、強迫症、摂食症、解離症	テキストと配布プリントの予習、レポート課題による復習		4
9回	依存症群の理解と支援：朴				アルコール依存症、薬物依存症、ギャンブル依存症、性依存症、インターネット依存症	テキストと配布プリントの予習、レポート課題による復習		4
10回	パーソナリティ症群・神経発達症群の理解と支援：朴				パーソナリティー症のクラスター分類、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、精神発達遅滞	テキストと配布プリントの予習、レポート課題による復習		4
11回	外因性精神疾患の理解と支援：朴				症状精神病、器質性精神疾患、せん妄、認知症	テキストと配布プリントの予習、レポート課題による復習		4
12回	保健医療分野法規と制度①：関谷				精神保健福祉法 他関係法規	指定教科書p412～435の予習、配布プリントおよび設問集の復習		4
13回	保健医療分野法規と制度②：関谷				社会 地域 医療 産業 司法	指定教科書p438～495の予習、配布プリントおよび設問集の復習		4
14回	精神保健に関する理論と支援：関谷				自殺予防、メンタルヘルス	配布プリントの予習、レポート課題による復習		4
15回	地域保健に関する理論と支援：関谷				地域介入 心理支援	配布プリントの予習、レポート課題による復習		4
16回								
計								60
成 績 評 価		小テスト		学習成果のフィードバック		・授業時に全体評価のフィードバックを行う		
		試験						
		レポート	60%					
		学習態度	40%	備考		・各タームに応じて領域ごとの小レポートを課す。 ・学習態度は、プレゼンテーション、質疑応答について評価する。		
		その他						
		計	100%					
テキスト		「知っておきたい精神医学の基礎知識 第2版」誠信書房 上島国利ら 2013年 3900円＋税						
テキスト以外の参考書（番号は、推薦順）（図書館備付）		1	「精神科診察診断学」医学書院 古川壽亮 2003年 販売終了 図書館備付					
		2	「カプラン 臨床精神医学ハンドブック 第4版」メディカルサイエンスインターナショナル 岩脇淳 2020年 6800円＋税					
		3	「看護のための精神医学 第2版」医学書院 中井久夫・山口直彦 2001年 2800円＋税					
		4	「精神医学テキスト 改訂第5版」南江堂 上島国利ら 2023年 4200円＋税					
		5						
		6						
		7						
		8						
		9						
		10						
履修上の注意事項や学習上の助言など		講義形式とゼミ形式で行う。ゼミ方式では、与えられた課題について各人が予習をし、担当部分のプレゼンテーションを行う。その後の全員で質疑を通して理解を深める。 各回の授業の予習・復習の際に必要なに応じてAIの使用を認めるが、発表資料およびレポート等は原則として自分の言葉で記述し、AIによる文章等を組み込む場合はその引用箇所や出典を明示すること。						

研究科・学 年		臨床心理学研究科 1年								
講義番号	210	教科名	産業保健心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)				授業形態	講義		
単位数	2	必・選	選必	開講時期	後期	担当者	碓井 真史・小林 智・小林 大介・★齋藤 智・★宮崎 隆穂			
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		1) 臨床心理学の専門家としての臨床実践力および倫理観を身につけている。 2) 臨床実践に基づいた臨床心理学的知識を視点・心理学及び関連領域の高度専門的知識を身につけている。								
講義の概要 (教育目標を含む)		臨床心理学と関連する産業・労働分野に関する産業保健心理学の理論と支援の展開についての知識を深めることを目的とする。								
学生の学習 (行動)目標		産業・労働分野に関する産業保健心理学の知識を獲得する。基礎知識をもとに産業・労働分野における心理学的支援の実践ができるようにする。								
授業計画(シラバス)										
回	内 容					キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間	
1回	産業保健心理学総論					産業保健、心理的支援	予習: 産業保健と心理的支援について調べる		4	
2回	民間企業における組織と役割について知ること、自身の関り方について考える					会社形態、社内組織、人事	予習: 民間企業における会社形態とその特徴について調べる 復習: 配布資料に基づきノートを整理すること		4	
3回	人事管理という仕事(1): 社外から人を採用する過程と人事管理について考える					人事管理、採用、異動	予習: 民間企業における人事の仕事とその特徴について調べる 復習: 配布資料に基づきノートを整理すること		4	
4回	人事管理と言う仕事(2): 社員の生活環境変化とストレスへの対応を人事部視点で考える					福利厚生、ストレス、人事部	予習: 人事関連業務におけるストレスへの対応として求められる業務を調べる 復習: 配布資料に基づきノートを整理すること		4	
5回	職場の社会心理学					社会的認知、認知バイアス、臨床社会心理学	予習: 社会心理学の全般的知識の確認 復習: 社会心理学の産業分野における応用について整理		4	
6回	職場の人間関係					帰属理論、ハラスメント、心理的安全性	予習: 対人認知、対人行動に関する知識の確認 復習: 心理的安全性の保たれた職場に関する整理		4	
7回	職場のメンタルヘルス1					健康診断 過重労働対策 ストレスチェック制度 面接指導	予習: 職場の健康診断の「目的」を調べる 復習: ストレスチェック制度を調べる		4	
8回	職場のメンタルヘルス2					職場のメンタルヘルス対策 精神疾患	予習: 働く人のメンタルヘルスと精神疾患について調べる 復習: 配布資料に基づきノートを整理すること		4	
9回	職場のメンタルヘルス3					心理学的支援 産業医 関係者へのコンサルテーション、コラボレーション	予習: 働く人の心理学的支援について調べる 復習: 配布資料に基づきノートを整理すること		4	
9回	職場のメンタルヘルスと復職支援(リワーク支援)					復職支援 リワーク支援	予習: メンタルヘルス不調者の復職支援について調べる 復習: 配布資料に基づきノートを整理すること		4	
11回	職場における臨床心理相談/ストレスケア (一般職、管理職)					職場における臨床心理相談/ストレスケア (一般職、管理職)	予習: ストレスマネジメントの方法について自分なりに調べておく 復習: 授業で扱った内容について整理する		4	
12回	職場におけるストレスマネジメント					ストレスマネジメント、リラクセーション	予習: リラクセーションの方法について自分なりに調べておく 復習: 授業で扱った内容について整理する		4	
13回	DCSモデルによる産業ストレスの理解と実践					DCSモデル(Demand Control Support)、EPA	予習: DCSモデル、EPAについて自分なりに調べておく 復習: 授業で扱った内容について整理する		4	
14回	健康的な労働意欲					社会的動機、達成動機、内発的動機づけ	予習: 社会的動機に関する知識の確認 復習: 健康的な労働意欲に関する整理		4	
15回	産業保健心理学(各論の総括)					産業、労働、意欲、健康	各論について総括をする		4	
16回	定期試験									
計									60	
成績評価		小テスト	35%	学習成果のフィードバック		オムニバス形式のため、それぞれのセクションごとにフィードバックを行う。				
		試験								
		レポート	35%							
		学習態度	30%	備考		オムニバス形式のため、それぞれのセクションごとに成績評価を行い総合得点で評価する。 各担当者ごとに小テストまたはレポート課題を設定する。学習態度は、授業中の発言などで評価する。				
		その他								
		計	100%							
テキスト		テキストはなし 配布資料								
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)		1	産業保健心理学 島津 明人(著)、島井 哲志(監修)、日本健康心理学会 2017							
		2	社会人のための産業カウンセリング入門、宮城まり子他、産業能率大学出版部(2014)							
		3	「新しい人事労務管理」(第5版)佐藤博樹、藤村博之、八代充史、有斐閣アルマ、2015年							
		4								
		5								
		6								
		7								
		8								
		9								
		10								
履修上の注意事項や学習上の助言など		オムニバス形式のため、それぞれのセクションの担当教員の授業形式をとる。本科目では、課題の理解を深めるための情報収集や文章の推敲に生成AIを活用できる。ただし、レポートの核となる部分は自身の思考によるものとする。								

研究科・学 年		臨床心理学研究科 1・2年							
講義番号	212	教科名	障害者(児)心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)				授業形態	講義	
単位数	2	必・選	選必	開講時期	前期	担当者	引土 達雄		
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照							
講義の概要 (教育目標を含む)		人は障害や疾病によって生活が制約されることがあります。どんな障害であっても、生活するにあたって、感じる苦難や課題は多様です。心理職としての支援を考える上で、障害という事象をもとに、どのような苦難を感じやすいかについて想像し、理解していく姿勢が求められます。本講義では、障害の特徴と当事者の心性について理解し、支援について考えてくための前提としての基本的な知識を身につけられることを目標とします。							
学生の学習 (行動)目標		① 障害児(者)の支援・教育について基礎的なことを説明できる。 ② 障害児(者)の様々な障害について基礎的なことを説明できる。							
授業計画(シラバス)									
回	内 容				キーワード		準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1回	障害者(児)心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)の概要				国際生活機能分類＜ICF＞、障害者総合支援法、児童福祉法、精神疾患の診断分類・診断基準		＜予習＞障害者・障害児心理学について書籍等で調べること。 ＜復習＞授業内で配布・紹介した障害者・障害児心理学について復習する。		4
2回	障害を受け止めることとその支援				告知後の心理的变化、親による障害の受け止め、きょうだいによる障害の受け止め、社会の障害の受け止め		＜予習＞障害の受容について書籍等で調べること。 ＜復習＞授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児への支援と教育について復習する。		4
3回	知的障害とその支援				知的障害、知的障害者福祉法、療育手帳制度		＜予習＞知的障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 ＜復習＞授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。		4
4回	注意欠如多動性障害とその支援				注意欠如多動性障害＜ADHD＞、成人の発達障害		＜予習＞注意欠如多動性障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 ＜復習＞授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。		4
5回	限局性学習障害とその支援				限局性学習障害＜SLD＞、読字障害、書字表出障害		＜予習＞限局性学習障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 ＜復習＞授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。		4
6回	身体障害とその支援				身体障害、肢体不自由、脳性まひ、筋ジストロフィー		＜予習＞身体障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 ＜復習＞授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。		4
7回	小児慢性特定疾患・指定難病とその支援				小児慢性特定疾患、小児慢性特定疾患を持つ子どもの生活、指定難病		＜予習＞小児慢性特定疾患・指定難病のある方とその家族への支援について書籍等で調べること。 ＜復習＞授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。		4
8回	高次脳機能障害とその支援				高次脳機能障害、失語・失行・失認、日常生活動作＜ADL＞		＜予習＞高次脳機能障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 ＜復習＞授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。		4
9回	発達障害、発達障害者支援法、自閉症スペクトラム障害＜ASD＞とその支援①				発達障害、発達障害者支援法、自閉症スペクトラム障害＜ASD＞		＜予習＞発達障害・自閉症スペクトラム障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 ＜復習＞授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。		4
10回	自閉症スペクトラム障害とその支援＜ASD＞②				発達障害、発達障害者支援法、自閉症スペクトラム障害＜ASD＞		＜予習＞発達障害・自閉症スペクトラム障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 ＜復習＞授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。		4
11回	視覚障害とその支援				視覚障害、視覚障害児の発達の特徴、視覚障害者(児)への支援		＜予習＞視覚障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 ＜復習＞授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。		4
12回	聴覚障害とその支援				聴覚障害、聴覚障害児の発達の特徴、聴覚障害者(児)への支援		＜予習＞聴覚障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 ＜復習＞授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。		4
13回	精神障害とその支援①				精神障害、精神保健福祉法、アセスメント、統合失調症		＜予習＞精神障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 ＜復習＞授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。		4
14回	精神障害とその支援②				気分障害、うつ病、双極性障害、認知行動療法		＜予習＞精神障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 ＜復習＞授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。		4
15回	精神障害とその支援③ まとめ				人格障害、不安障害		＜予習＞精神障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 ＜復習＞授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。		4
16回									
計									60

成 績 評 価	小テスト	0%	学習成果のフィードバック	各授業でリアクションペーパーの配布と回収を行い、次回の授業時にフィードバックが行われる。興味関心が院生間で集中している場合は、授業時間中にその分野について説明を行う。
	試験	0%		
	レポート	60%		
	学習態度	40%	備考	※講義では、受講人数の様子を見て、いくつかのグループを作り、ディスカッションを行いその内容をまとめて発表してもらうことを予定している。学習態度は、授業への積極的参加20%、発表形式講義への参加20%から総合的に判断する。 ※レポートは、期間中2回課す。レポート①:7回目終了時点で課す。テーマは、第1回～第7回までに扱った内容(それぞれの障害の当事者が感じやすいと想定される苦難とその支援)。レポート②:15回目終了時に課す。テーマは、8回目～第15回目までに扱った内容(それぞれの障害の当事者が感じやすいと想定される苦難とその支援)についてのレポートを課す。
	その他	0%		
	計	100%		
テ キ ス ト	不要			
テキスト以外の 参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)	1	シリーズ心理学と仕事 障害者心理学 太田信夫(監修) 北大路書房 2017		
	2	公認心理師の基礎と実践 障害者・障害児心理学 柘植雅義 他(編) 遠見書房 2020		
	3	視覚障害教育に携わる方のために 香川邦夫(編著) 慶応義塾大学出版 2016(5訂版)		
	4	聴覚障害者の心理臨床 村瀬佳代子・河崎佳子(編著) 日本評論社 2008		
	5	肢体不自由児の医療・療育・教育 篠田達明(監修) 金芳堂 2015(第3版)		
	6	「こころ」の本質とは何か 滝川一廣 筑摩書房 2009		
	7	高次脳機能障害の理解と診察 平山和美(編著) 中外医学社 2017		
	8	発達障害児者支援とアセスメントのガイドライン 辻井正次(監修) 金子書房 2014		
	9	特別支援教育の基礎・基本2020 国立特別支援教育総合研究所 ジアース教育新社 2020		
	10			
履修上の注意事項や 学習上の助言など	課題の理解を深めるための情報収集や文章の推敲に生成AIを活用できる。ただし、収集された情報にハルシネーションリスクがあることを理解し、情報源を必ず確認すること。また、課題作成に直接的に引用する場合は、プロンプトと引用の範囲を明記すること。実際の臨床においてはクライアントに応答するのはAIではなく自分自身であることを自覚した上で課題にどの程度AIを活用するかを検討すること。			

研究科・学 年		臨床心理学研究科 1・2年						
講義番号	213	教科名	メンタルヘルス特論(心の健康教育に関する理論と実践)			授業形態	講義	
単位数	2	必・選	選必	開講時期	前期	担当者	○齋藤 恵美・○佐藤 修哉	
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照						
講義の概要 (教育目標を含む)		メンタルヘルスとは、心の健康を意味する。人間は生きていく上で、誰もがさまざまなストレスに曝されている。この授業では、メンタルヘルスの保持・増進を達成するための諸理論や実践力を身につけることを目標としている。 メンタルヘルスを保つためには、心の健康教育が不可欠であり、はじめに心理教育の実践において基礎となる心の健康とストレスの関連について諸理論を学ぶ。また、心の健康教育は、子どもから老人を含む大人まで幅広い年代、かつ、保健医療、福祉、教育、産業・労働、司法・犯罪といった臨床実践の各分野でも重要である。したがって、心理専門職として身につけておく必要のある知識やスキルは多岐にわたることから、多様な実践例や架空事例を通じて、学びを深めていく。 基礎事項を学んだ後に、小グループに分かれ、心の健康教育プログラムを作成する。作成したプログラムをロールプレイ等により試行したうえで、ディスカッションを行い、実践力を高める。						
学生の学習 (行動)目標		1. 健康教育・健康増進に関する理論を概説できる 2. 心の健康教育の生物・心理・社会的必要性を判断できる 3. 集団を対象とした心の健康教育を計画・実践する技術を習得する						
授業計画(シラバス)								
回	内 容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1回	イントロダクション：心の健康教育と心理職の役割				心理教育、健康日本21、健康観、ウェルビーイング	復習：授業内容をノートに各自まとめること		4
2回	心の健康教育に関する理論と実践例(1)産業保健分野				予防、健康行動理論、行動変容	復習：授業内容をノートに各自まとめること		4
3回	心の健康教育に関する理論と実践例(2)産業保健分野				ストレスマネジメント、セルフ・モニタリング、行動活性化	復習：授業内容をノートに各自まとめること		4
4回	心の健康教育に関する理論と実践例(3)その他の分野				問題解決技法、アサーション・トレーニング	復習：授業内容をノートに各自まとめること		4
5回	心の健康教育のプログラム立案(1)				うつ、不安、怒り、バーンアウト	予習：プログラム企画立案のための資料を収集すること		4
6回	心の健康教育のプログラム立案(2)				健康問題、生活習慣、依存・嗜癖	予習：プログラム企画立案のための資料を収集すること		4
7回	心の健康教育の実践(1)				セルフケア教育、メンタルヘルス研修	予習：プログラム実践の準備をすること 復習：プログラムの改善点、優れていた点についてまとめること		4
8回	心の健康教育の実践(2)				心理教育、家族教室	予習：プログラム実践の準備をすること 復習：プログラムの改善点、優れていた点についてまとめること		4
9回	心の健康教育に関する理論と実践例(4)教育分野				いじめ予防、エンカウンター、SEL、生徒指導提要	予習：学校適応のための予防教育について調べること 復習：授業内容をノートに各自まとめること		4
10回	心の健康教育に関する理論と実践例(5)教育分野				メンタルヘルス・リテラシー、援助要請、セルフケア、スティグマ	予習：SOS出し方教育について調べること 復習：授業内容をノートに各自まとめること		4
11回	心の健康教育に関する理論と実践例(6)その他の分野				発達アセスメント、生活習慣病、自殺予防、子育て支援、SST、災害支援	予習：キーワードや当該分野の関連事項について調べ、まとめること 復習：授業内容をノートに各自まとめること		4
12回	心の健康教育のプログラム立案(3)教育分野				発達支持的生徒指導、課題予防的生徒指導、疾病教育、疾病理解	予習：プログラム企画立案のための資料を収集すること		4
13回	心の健康教育のプログラム立案(4)教育分野				介入デザイン、アセスメント、尺度	予習：プログラム企画立案のための資料を収集すること		4
14回	心の健康教育の実践(3)教育分野				集団への介入、個人への介入	予習：プログラム実践の準備をすること 復習：プログラムの改善点、優れていた点についてまとめること		4
15回	心の健康教育の実践(4)教育分野				効果検証、縦断調査、横断調査、多変量解析	予習：プログラム実践の準備をすること 復習：プログラムの改善点、優れていた点についてまとめること		4
16回								
計								60
成 績 評 価		小テスト		学習成果のフィードバック	出席者の発言やリアクションペーパー、発表内容等について授業内で教員がコメントする			
		試験						
		レポート	40%					
		学習態度	20%	備考	・講義内容の理解を深めるため、リアクションペーパー及びレポートの提出を求める。 ・学習態度については、ディスカッションやグループワークにおける積極的な発言を評価する。 ・その他については、プログラム実践の内容を評価する。			
		その他	40%					
		計	100%					
テキスト		なし。適宜プリントを配布する						
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)		1	心の健康教育ハンドブック—ここからでも健康な生活を送るために—坂野雄二・百々尚美・本谷亮 金剛出版 2021					
		2	心の健康教育(コミュニティ心理学シリーズ1) 久田満 金子書房 2021					
		3	学校、職場、地域におけるストレスマネジメント実践マニュアル 坂野雄二(監修) 嶋田洋徳・鈴木伸一(編著) 北大路書房 2004					
		4	職場のストレスマネジメント—セルフケア教育の企画・実施マニュアル— 島津明人(編著) 誠信書房 2014					
		5	健康行動理論による研究と実践 一般社団法人日本健康教育学会 医学書院 2019					
		6	学校におけるメンタルヘルス教育の進め方 水野雅文・森良一・竹下君枝 大修館書店 2023					
		7	ソーシャル・エモーショナル・ラーニング(SEL)—非認知能力を育てるフレームワーク— 渡辺弥生・小泉令三 福村出版 2022					
		8	いじめ予防スキルアップガイド—エビデンスに基づく安心・安全な学校づくりの実践— 飯田順子・杉本希映・青山郁子・遠藤寛子(編著) 金子書房 2021					
		9	チーム学校での効果的な援助—学校心理学の最前線— 水野治久・家近早苗・石隈利紀(編) ナカニシヤ出版 2018					
		10	援助要請の心理学に基づく実践SOSの出し方教育 水野治久・本田真大・永井智(編著) 金子書房 2025					
履修上の注意事項や学習上の助言など		授業資料の配布方法 配布資料のうち重要なものは教員が印刷して配布するが、補助資料はLMSからダウンロードすること。 生成AIの利用方針 本科目では、課題の理解を深めるための情報収集や文章の推敲に生成AIを活用できる。発表資料やレポートにはAI利用の有無と範囲を明記すること。						

研究科・学 年		臨床心理学研究科 1・2年							
講義番号	214	教科名		精神分析学特論				授業形態	講義
単位数	2	必・選	選必	開講時期	前期集中	担当者	☆大森 智恵		
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照							
講義の概要 (教育目標を含む)		「精神分析」とはどのようなものなのか、精神分析学の歴史的な流れを概観し、人名や専門用語も含めた各理論について理解する。特に、フロイトの心理学、自我心理学、対象関係論について理解を深める。							
学生の学習 (行動)目標		精神分析の重要な概念や専門用語について簡潔に説明することができる。また、実際の事例について議論する際に、精神分析的な視点から理解することができる。							
授業計画(シラバス)									
回	内 容				キーワード		準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1回	導入				導入		具体的な講義に入る前に、「テキスト」を読んでおくこと。		12
2回	「精神分析」とは				精神分析の位置づけ		上記の通り		2
3回	「精神分析という営み」とは				精神分析の「場」とプロセス		上記の通り		2
4回	歴史と定義				催眠、自由連想、歴史		上記の通り		4
5回	構造論				自我、エス、超自我		上記の通り		4
6回	力動的観点:自我の諸機能				現実機能、防衛機能、適応機能		上記の通り		4
7回	力動的観点:自我の諸機制				防衛機制、抑圧、否認		上記の通り		4
8回	心の病理と退行				退行		上記の通り		4
9回	フロイトと自我心理学の発達論				発達段階		上記の通り		4
10回	対象関係の発達				良い対象、悪い対象		上記の通り		4
11回	マラーの分離—個体化の発達				乳幼児期の発達		上記の通り		4
12回	スターンの発達論				新生自己感		上記の通り		4
13回	境界的人格構造				カーンバーグ、原始的防衛機制		上記の通り		4
14回	事例研究1				心理療法の実践における基本的理解		グループに分かれて事例の理解を深める。その後、各グループごとに発表を行う。		2
15回	事例研究2				心理療法の実践における基本的理解		上記の通り		2
16回	予備日								
計									60
成 績 評 価		小テスト		学習成果のフィードバック		コメントやディスカッションに対し、授業内で教員からコメントが与えられる。			
		試験							
		レポート	50%						
		学習態度	50%	備考		レポート:講義やディスカッションを通して学んだこと、および考えたことなどを書いたレジュメ(A4 1枚)を評価する。 学習態度:ディスカッションへの態度について評価する。			
		その他							
		計	100%						
テキスト		馬場禮子著 2016年「精神分析的人格理論の基礎 心理療法を始める前に」 岩崎学術出版社 3080円							
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)		1							
		2							
		3							
		4							
		5							
		6							
		7							
		8							
		9							
		10							
履修上の注意事項や学習上の助言など		積極的なコメントおよびディスカッションが求められます。							

研究科・学 年		臨床心理学研究科 1 年									
講義番号	301	教科名	特定課題研究 I				授業形態	演習			
単位数	2	必・選	必修	開講時期	通年	担当者	伊藤真理子・碓井真史・本間恵美子・浅田剛正・宮澤淳滋・引土達雄・小林智・小林大介				
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照									
講義の概要 (教育目標を含む)		修士課程のレベルにふさわしく、かつ高度専門職業人として適切な臨床心理学に関する研究課題を設定し、研究計画を立てる。 担当教員によるゼミ形式で進められる。修士課程2年次の修士論文執筆への準備を行う。									
学生の学習 (行動)目標		・修士論文を作成するにあたって必要な文献の内容を理解し、説明できる。 ・修士論文を作成するために必要な研究方法を理解し、説明できる。 ・修士論文作成についてディスカッションを通して検討できる。 ・修士論文作成に必要な研究倫理を理解し、自らの研究計画に適用できる。									
授業計画(シラバス)											
回	内 容					キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量			準備学習に要する時間	
1回	研究テーマの構想と研究計画書の作成					研究テーマ	教員からの助言をもとに研究テーマについて検討する			4	
2回	〃					〃	〃			4	
3回	研究計画の検討					研究テーマ、研究計画、研究手法	研究テーマ、研究法の検討。必要に応じて資料収集。			4	
4回	〃					〃	〃			4	
5回	〃					〃	〃			4	
6回	〃					〃	〃			4	
7回	〃					〃	〃			4	
8回	〃					〃	〃			4	
9回	〃					〃	〃			4	
10回	〃					〃	〃			4	
11回	〃					〃	〃			4	
12回	〃					〃	〃			4	
13回	〃					〃	〃			4	
14回	〃					〃	〃			4	
15回	修士論文構想発表会に参加し発表・質疑応答から研究計画をブラッシュアップさせる。					研究構想発表、討論	研究構想発表の準備			4	
16回	研究計画の検討					研究テーマ、研究計画、研究手法	研究テーマ、研究法の検討。必要に応じて資料収集。			4	
17回	〃					〃	〃			4	
18回	〃					〃	〃			4	
19回	〃					〃	〃			4	
20回	〃					〃	〃			4	
21回	〃					〃	〃			4	
22回	〃					〃	〃			4	
23回	〃					〃	〃			4	
24回	〃					〃	〃			4	
25回	〃					〃	〃			4	
26回	〃					〃	〃			4	
27回	〃					〃	〃			4	
28回	〃					〃	〃			4	
29回	〃					〃	〃			4	
30回	修士論文中間発表会に参加する。発表・質疑応答により研究計画をブラッシュアップさせる。					研究発表、討論	研究中間発表の準備			4	
計										120	
成 績 評 価		小テスト		学習成果のフィードバック		構想発表についてのフィードバックは、発表時の質疑応答とゼミにおいて行なう。 ゼミ形式で研究計画の検討を行う中で適宜学習成果についてもフィードバックを行なっていく。					
		試験									
		レポート									
		学習態度	50%	備 考		学習態度はゼミへの準備状況とディスカッションへの参加状況により評価を行なう。 その他は、修士論文の進め方と内容、文献の選び方などについての評価を行なう。					
		その他	50%								
		計	100%								
テキスト		特に指定はないが、指導教員によって適宜紹介する。									

テキスト以外の 参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)	1	「初心者のための臨床心理学研究実践マニュアル」津川律子・遠藤裕乃著 金剛出版
	2	「臨床心理学研究法」全8巻 下山晴彦編 新曜社
	3	「臨床心理学研究法」岩壁茂・杉浦義典編 東京大学出版会
	4	「はじめて学ぶ臨床心理学の質的研究:方法とプロセス」岩壁茂著 岩崎学術出版社
	5	「臨床心理学研究の技法」下山晴彦著 福村出版
	6	「社会調査の考え方」(上・下)佐藤郁哉著 東京大学出版会
	7	「心理学論文の書き方(改訂新版)」松井豊著 河出書房新社
	8	「人間科学のための混合研究法」J. W. クレスウェル・V. L. ブラノクラーク著 北大路書房
	9	「改訂エンサイクロペディア心理学研究方法論」W. J. レイ著 北大路書房
	10	「心理学研究法入門」南風原朝和・市川伸一・下山晴彦編 東京大学出版会
履修上の注意事項や 学習上の助言など	論文作成のための情報収集や文章の推敲に生成AIを活用することができます。ただし、提出物は必ず自身の思考によるものとし、AI利用の有無と範囲を明記すること。	

2025 年度入学生

教育課程表

講義概要（2 年次開講科目）

教育課程表（令和7年度〔2025〕入学生適用）

授 業 科 目	講義 番号	授業 年次	単 位			1 年		2 年		担当教員	
			必修	選択 必修	選択	前期	後期	前期	後期		
臨床心理学特論Ⅰ	101	1	2			2				伊藤真理子	
臨床心理学特論Ⅱ	102	1	2				2			本間恵美子	
臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	103	1	2			2				宮澤淳滋	
臨床心理面接特論Ⅱ	104	1	2				2			浅田剛正	
臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	105	1	2			2				本間恵美子・引土達雄・宮澤淳滋	
臨床心理査定演習Ⅱ	106	1	2				2			引土達雄・宮澤淳滋・小林大介・ ☆中村協子	
臨床心理基礎実習Ⅰ	107	1	2			2				伊藤真理子・浅田剛正・引土達雄	
臨床心理基礎実習Ⅱ	108	1	2				2			小林智・宮澤淳滋	
臨床心理実習Ⅰ	109	2	1					1		伊藤真理子、他（計11名）※1	
臨床心理実習Ⅱ	110	2	1						1	浅田剛正、他（計11名） ※2	
臨床心理演習Ⅰ	201	1		4		4				浅田剛正、他（計 8名） ※3	
臨床心理演習Ⅱ	202	2		4				4		伊藤真理子、他（計12名）※4	
心理実践実習Ⅰ	203	1		4		4				伊藤真理子、他（計12名）※5	
心理実践実習Ⅱ	204	2		6				6		本間恵美子、他（計12名）※6	1コマに外部講師招聘 （病院CP）
臨床心理学研究法特論	205	1		2		2				碓井真史・本間恵美子・浅田剛正	
心理学研究法演習	206	1		2		2				○新國佳祐	
臨床心理倫理特論	207	1		2			2			引土達雄	1コマに外部講師招聘 （精神障害者の人権：野口）
精神保健医学特論 （保健医療分野に関する理論と支援の展開）	209	1		2		2				浅田剛正・○関谷昭吉・ ☆村松公美子	夏季集中講義
学校臨床心理学特論 （教育分野に関する理論と支援の展開）	211	2		2				2		小林大介	1コマに外部講師招聘予定 （スクールカウンセラー）
非行・犯罪心理学特論 （司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	212	2		2				2		☆佐藤亨・小林大介	1コマに外部講師招聘予定 （県警被害者支援室カウンセラー）
産業保健心理学特論 （産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	213	1		2			2			碓井真史・小林智・小林大介・ ★齋藤智・★宮崎隆徳	
家族・地域支援心理学特論 （家族・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	214	2		2				2		小林智・○佐藤修哉	
障害者（児）心理学特論 （福祉分野に関する理論と支援の展開）	210	1・2		2				2		引土達雄	前期隔年開講 2026年度開講
メンタルヘルズ特論 （心の健康教育に関する理論と実践）	216	1・2		2		2				○齋藤恵美・○佐藤修哉	前期隔年開講 2026年度開講
精神分析学特論	217	1・2		2				2		☆大森智恵	前期隔年開講 2026年度集中（夏季）
特定課題研究Ⅰ	301	1	2			2				伊藤・碓井・本間・浅田・引土・宮澤・ 小林智・小林大介	
特定課題研究Ⅱ	302	2	2					2		伊藤・碓井・本間・浅田・引土・宮澤・ 小林智・小林大介	

○福祉心理学部専任教員

★短大教員

●看護学部教員

☆学外非常勤講師

※1 臨床心理実習Ⅰ担当教員：伊藤・本間・浅田・引土・宮澤・小林智・小林大・○真壁・○佐藤修・☆中村・☆佐藤亨

※2 臨床心理実習Ⅱ担当教員：浅田・本間・伊藤・引土・宮澤・小林智・小林大・○真壁・○佐藤修・☆中村・☆佐藤亨

※3 臨床心理演習Ⅰ担当教員：浅田・本間・伊藤・引土・宮澤・小林智・小林大・○真壁

※4 臨床心理演習Ⅱ担当教員：伊藤・本間・浅田・引土・宮澤・小林智・小林大・○真壁・○齋藤・○佐藤修・☆中村・☆佐藤亨

※5 心理実践実習Ⅰ担当教員：伊藤・本間・浅田・引土・宮澤・小林智・小林大・○真壁・○齋藤・○佐藤修・☆中村・☆佐藤亨

※6 心理実践実習Ⅱ担当教員：本間・伊藤・浅田・引土・宮澤・小林智・小林大・○真壁・○齋藤・○佐藤修・☆中村・☆佐藤亨

※7 上記教育課程表に示す授業科目は、新潟青陵大学大学院臨床心理学研究科を専攻する者に特化して開講されるものとする。

研究科・学 年		臨床心理学研究科 2年													
講義番号		109		教科名		臨床心理実習Ⅰ		授業形態		実験・実習					
単位数		1		必・選		必修		開講時期		前期		担当者		伊藤真理子・本間恵美子・浅田剛正・小林智・小林大介・宮澤淳澄・引土達雄・〇真壁あさみ・〇佐藤修哉・☆中村協子・☆佐藤亨	
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照													
講義の概要 (教育目標を含む)		臨床心理センターで担当する面接事例および査定事例について、指定された2名の臨床心理士によるスーパーヴィジョンを受ける。スーパーヴィジョンに際しては、事前に実習者(スーパーヴァイザー)が自身の事例記録や査定データから検討資料としてまとめ直し、考察されたクライアントの見立てや面接方針等を基に個別に検討を行う。スーパーヴィジョンを通して、臨床心理面接において基本となる「見立て」、臨床心理査定の活用方法、ケースに関わる業務およびケースマネジメントの基本的理解、臨床心理士として実践に関わる上でのスーパーヴィジョンの必要性と意義について教授する。													
学生の学習 (行動)目標		・臨床心理面接において基本となる「見立て」について理解し、クライアントとそのケースに応じた人間理解と方針を自ら設定することができる ・臨床心理査定における所見の作成、クライアントへのフィードバック、査定の活用について、個別のケースに応じた理解と方法を身につける ・臨床心理事例に関わる業務およびケースマネジメントの基本的理解を身につけ、臨床心理センターの一員として責任をもった連携をとることができる ・臨床心理士として実践に関わる上でのスーパーヴィジョンの必要性と意義を理解し、スーパーヴィジョンの機会を主体的に活用することができる													
授業計画(シラバス)															
回	内 容				キーワード				準備学習(予習・復習)の内容と分量				準備学習に要する時間		
1回	オリエンテーション(事前スーパーヴィジョン)				スーパーヴィジョン				スーパーヴィジョンを受けるに際して、自身の課題意識を明確にしておくこと				2		
2回	心理臨床スーパーヴィジョン				スーパーヴィジョン				面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと				2		
3回	心理臨床スーパーヴィジョン				スーパーヴィジョン				面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと				2		
4回	心理臨床スーパーヴィジョン				スーパーヴィジョン				面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと				2		
5回	心理臨床スーパーヴィジョン				スーパーヴィジョン				面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと				2		
6回	心理臨床スーパーヴィジョン				スーパーヴィジョン				面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと				2		
7回	心理臨床スーパーヴィジョン				スーパーヴィジョン				面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと				2		
8回	心理臨床スーパーヴィジョン				スーパーヴィジョン				面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと				2		
9回	心理臨床スーパーヴィジョン				スーパーヴィジョン				面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと				2		
10回	心理臨床スーパーヴィジョン				スーパーヴィジョン				面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと				2		
11回	心理臨床スーパーヴィジョン				スーパーヴィジョン				面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと				2		
12回	心理臨床スーパーヴィジョン				スーパーヴィジョン				面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと				2		
13回	心理臨床スーパーヴィジョン				スーパーヴィジョン				面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと				2		
14回	心理臨床スーパーヴィジョン				スーパーヴィジョン				面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと				2		
15回	心理臨床スーパーヴィジョン				スーパーヴィジョン				面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと				2		
16回															
計													30		
成績評価		小テスト		学習成果のフィードバック		各回が終わるごとにスーパーヴィジョンレポートを作成し、次の回にスーパーヴァイザーからフィードバックを行なう。									
		試験													
		レポート										30%			
		学習態度		70%		備考		学習態度はスーパーヴィジョンのための事前準備やスーパーヴィジョンでの発言等、主体的な学習への姿勢を含む。							
		その他													
		計		100%											
テキスト		なし													
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)		1	「新訂 方法としての面接」(土居健郎) 医学書院、1992												
		2	「心理臨床実践におけるスーパーヴィジョン：スーパーヴィジョン学の構築」(皆藤章) 日本評論社、2014												
		3	「河合隼雄語録—カウンセリングの現場から」(河合隼雄) 岩波現代文庫、2018												
		4	「面接法」熊倉伸宏著 新興医学出版												
		5	「精神分析的な心理療法の実践—クライアントに出会う前に」(馬場禮子) 岩崎学術出版社、1999												
		6													
		7													
		8													
		9													
		10													
履修上の注意事項や学習上の助言など		・各実習生には、臨床心理士・公認心理師有資格者2名をスーパーヴァイザーとして配置する。指導を受ける時間帯や場所は各スーパーヴァイザーとの相談の上、適宜調整すること。 ・臨床心理センターでの担当ケースについては、すべてのケースについてスーパーヴィジョンを受ける必要がある。 ・スーパーヴィジョンの実施回数および時間数について、各月に助手まで報告すること。 ・スーパーヴィジョンの実施・記録・レポート作成に際してのAIの利用は個人情報保護の観点等に鑑み禁止する。													

研究科・学 年		臨床心理学研究科 2年							
講義番号	110	教科名	臨床心理実習Ⅱ			授業形態	実験・実習		
単位数	1	必・選	必修	開講時期	後期	担当者	浅田剛正・本間恵美子・伊藤真理子・小林智・小林大介・宮澤淳滋・引土達雄・ ○真壁あさみ・○佐藤修哉・☆中村協子・☆佐藤亨		
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照							
講義の概要 (教育目標を含む)		臨床心理実習Ⅰに引き続き、臨床心理センターで担当する面接事例および査定事例について、指定された2名の臨床心理士によるスーパーヴィジョンを受ける。スーパーヴィジョンに際しては、事前に実習者(スーパーヴァイザー)が自身の事例記録や査定データから検討資料としてまとめ直し、考察されたクライアントの見立てや面接方針等を基に個別に検討を行う。スーパーヴィジョンを通して、臨床心理面接において基本となる「見立て」、臨床心理査定の活用方法、ケースに関わる業務およびケースマネジメントの基本的理解、臨床心理士として実践に関わる上でのスーパーヴィジョンの必要性と意義について教授する。							
学生の学習 (行動)目標		・臨床心理面接において基本となる「見立て」について理解を深め、クライアントとそのケースに応じた適切な人間理解と方針を定めることができる ・臨床心理事例に関わる面接、査定、ケースマネジメントおよび連携業務において、臨床心理学の諸理論とつなげながら実践することができる ・臨床心理士としての専門性と汎用性を理解し、自身が実践現場で今後取り組むべき専門職としての課題を自覚することができる ・心理臨床スーパーヴィジョンの実践的意義と多様性を理解し、関係性に基づくスーパーヴァイザーの役割と機能について理解できる							
授業計画(シラバス)									
回	内 容				キーワード		準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1回	心理臨床スーパーヴィジョン				臨床心理面接		テキストおよび参考書を参照し、自身の課題意識を明確にしておくこと		2
2回	心理臨床スーパーヴィジョン				臨床心理査定		面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと		2
3回	心理臨床スーパーヴィジョン				面接構造		面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと		2
4回	心理臨床スーパーヴィジョン				母子並行面接		面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと		2
5回	心理臨床スーパーヴィジョン				危機介入		面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと		2
6回	心理臨床スーパーヴィジョン				連携・リファー		面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと		2
7回	心理臨床スーパーヴィジョン				ケースマネジメント		面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと		2
8回	心理臨床スーパーヴィジョン				多重関係		上記の事前学習と併せて、テキストおよび参考書を参照しておくこと		2
9回	心理臨床スーパーヴィジョン				心理療法		面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと		2
10回	心理臨床スーパーヴィジョン				身体化		面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと		2
11回	心理臨床スーパーヴィジョン				イメージ		面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと		2
12回	心理臨床スーパーヴィジョン				コンステレーション(布置)		面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと		2
13回	心理臨床スーパーヴィジョン				事例研究		面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと		2
14回	心理臨床スーパーヴィジョン				終結		面接記録から検討資料をまとめ、自身の見立てと今後の方針を考察しておくこと		2
15回	心理臨床スーパーヴィジョン				心理臨床スーパーヴィジョン		上記の事前学習と併せて、テキストおよび参考書を参照しておくこと		2
16回									
計									30
成 績 評 価		小テスト		学習成果のフィードバック	各回が終わるごとにスーパーヴィジョンレポートを作成し、次の回にスーパーヴァイザーからフィードバックを行なう。				
		試験							
		レポート	30%						
		学習態度	70%	備 考	・学習態度はスーパーヴィジョンのための事前準備やスーパーヴィジョンでの発言等、主体的な学習への姿勢を含む。 ・評価基準は、実習への取り組みの態度・目的意識、臨床心理士との検討内容と理解度、臨床事例に対する理解度と対応などである。				
		その他							
		計	100%						
テ キ ス ト		「心理臨床実践におけるスーパーヴィジョン：スーパーヴィジョン学の構築」(皆藤章)日本評論社、2014							
テキスト以外の 参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)		1	「新訂 方法としての面接」(土居健郎) 医学書院、1992						
		2	「精神分析的心理療法の実践—クライアントに出会う前に」(馬場禮子)岩崎学術出版社、1999						
		3	「河合隼雄語録—カウンセリングの現場から」(河合隼雄)岩波現代文庫、2018						
		4	「面接法」熊倉伸宏著 新興医学出版						
		5							
		6							
		7							
		8							
		9							
		10							
履修上の注意事項や 学習上の助言など		・各実習生には、臨床心理士資格を持つ教員2名をスーパーヴァイザーとして配置する。指導を受ける時間帯や場所は各スーパーヴァイザーとの相談の上、適宜調整すること。 ・臨床心理センターでの担当ケースについては、すべてのケースについて指定されたスーパーヴァイザーにスーパーヴィジョンを受ける必要がある。 ・スーパーヴィジョンの実施回数および時間数について、各月で助手まで報告すること。 ・原則として、本授業に関わるケース報告資料やレポートはAIで作成せず、自分の言葉で記述すること。ただし、関連概念や理論を参照する際のAI活用は可とする。							

研究科・学 年		臨床心理学研究科 2年								
講義番号	202	教科名	臨床心理演習Ⅱ				授業形態	演習		
単位数	4	必・選	選必	開講時期	通年	担当者	伊藤真理子・本間恵美子・浅田剛正・小林智・小林大介・宮澤淳滋・引土達雄・○真壁あさみ・○齋藤恵美・○佐藤修哉・☆中村協子・☆佐藤亨			
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照								
講義の概要 (教育目標を含む)		臨床心理センタースタッフである教員、大学院生で構成されるケースカンファレンスに参加し事例発表を行う。 担当事例の概要と面接経過について発表し、事例の見立てや経過の理解、対応の仕方についてディスカッションを行い検討する。 これを通して担当事例の背景や面接経過の臨床的理解や見立てを深めるとともに、事例報告の方法を学ぶ。 また、授業回のうち12回分は修士1年生と合同でグループ体験・ロールプレイによるトレーニングを行う。								
学生の学習 (行動)目標		①担当事例について事例概要及び面接経過を適切にまとめ、報告することが出来る。 ②カンファレンスで検討したい事項や事例・面接経過の見立てについて自分なりに組み立て、問題意識を持って発表を行うことが出来る。 ③カンファレンス参加者として発表された事例に関心をもち、積極的にディスカッションに参加できる。								
授業計画(シラバス)										
回	内 容				キーワード		準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間	
1-2回	ケースカンファレンス①-1				事例検討		〈予習〉資料作成		4	
3-4回	ケースカンファレンス①-2				事例検討		〈予習〉資料作成		4	
5-6回	ケースカンファレンス②-1				事例検討		〈予習〉資料作成		4	
7-8回	ケースカンファレンス②-2				事例検討		〈予習〉資料作成		4	
9-10回	ケースカンファレンス③-1				事例検討		〈予習〉資料作成		4	
11-12回	ケースカンファレンス③-2				事例検討		〈予習〉資料作成		4	
13-14回	ケースカンファレンス④-1				事例検討		〈予習〉資料作成		4	
15-16回	ケースカンファレンス④-2				事例検討		〈予習〉資料作成		4	
17-18回	ケースカンファレンス④-1				事例検討		〈予習〉資料作成		4	
19-20回	ケースカンファレンス④-2				事例検討		〈予習〉資料作成		4	
21-22回	ケースカンファレンス⑤-1				事例検討		〈予習〉資料作成		4	
23-24回	ケースカンファレンス⑤-2				事例検討		〈予習〉資料作成		4	
25-26回	ケースカンファレンス⑥-1				事例検討		〈予習〉資料作成		4	
27-28回	ケースカンファレンス⑥-2				事例検討		〈予習〉資料作成		4	
29-30回	ケースカンファレンス⑦-1				事例検討		〈予習〉資料作成		4	
31-32回	ケースカンファレンス⑦-2				事例検討		〈予習〉資料作成		4	
33-34回	ケースカンファレンス⑧-1				事例検討		〈予習〉資料作成		4	
35-36回	ケースカンファレンス⑧-2				事例検討		〈予習〉資料作成		4	
37-38回	ケースカンファレンス⑨-1				事例検討		〈予習〉資料作成		4	
39-40回	ケースカンファレンス⑨-2				事例検討		〈予習〉資料作成		4	
41-42回	ケースカンファレンス⑩-1				事例検討		〈予習〉資料作成		4	
43-44回	ケースカンファレンス⑩-2				事例検討		〈予習〉資料作成		4	
45-46回	ケースカンファレンス⑪-1				事例検討		〈予習〉資料作成		4	
47-48回	ケースカンファレンス⑪-2				事例検討		〈予習〉資料作成		4	
49-50回	ファンタジーグループ演習				ファンタジーグループ				0	
51-52回	ファンタジーグループ演習				ファンタジーグループ		〈復習〉レポート作成		6	
53-54回	グループダイナミクス				グループセラピー				0	
55-56回	グループダイナミクス				グループセラピー		〈復習〉レポート作成		6	
57-58回	インテークロールプレイ演習①				ロールプレイ		〈復習〉レポート作成		6	
59-60回	インテークロールプレイ演習②				ロールプレイ		〈復習〉レポート作成		6	
計									120	
成績評価		小テスト		学習成果のフィードバック		ケースカンファレンスのディスカッションの中で適宜フィードバックを行う。				
		試験								
		レポート								
		学習態度		備考		発表した事例への対応・事例への理解・経過の考察内容、事例資料や発表のわかりやすさ、討論の姿勢などを対象に評価を行う。				
		その他	100%							
		計	100%							
テキスト		なし								

テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)	1	
	2	
	3	
	4	
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	
履修上の注意事項や 学習上の助言など	演習では自らの体験を重視し、実際の事例を取り扱う。資料やレポート作成の際のAIの利用は禁止する。	

研究科・学 年		臨床心理学研究科 2年								
講義番号	204	教科名	心理実践実習Ⅱ				授業形態	実験・実習		
単位数	6	必・選	選必	開講時期	通年	担当者	本間恵美子・伊藤真理子・浅田剛正・小林智・小林大介・宮澤淳滋・引土達雄・○真壁あさみ・○齋藤恵美・○佐藤修哉・☆中村協子・☆佐藤亨			
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照								
講義の概要 (教育目標を含む)		本学大学院附属臨床センター及び外部機関における実習を通じて、心理に関する支援を必要とする者(要支援者)等とのコミュニケーションのあり方や心理面接、心理検査についての知識と技能を身に付け、要支援者等の理解とニーズの把握及び支援方針の策定、チームアプローチや多職種連携、地域連携等について学ぶことを目的とする。								
学生の学習 (行動)目標		・心理的な支援を必要とする人と適切にコミュニケーションを取ることができる。 ・心理的支援を必要とする人との心理面接を指導を受けながら実施することができる。 ・心理的な支援を必要とする人に対する心理検査を、指導を受けながら実施することができる。 ・心理的な支援を必要とする人のニーズについて理解し、説明することができる。 ・心理的な支援を必要とする人への支援について、チームアプローチや多職種連携、地域連携の必要性について理解し、説明することができる。								
授業計画(シラバス)										
回	内 容					キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間	
1回	臨床心理センター実習:ケース担当実習					面接、プレイセラピー	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。		4	
2回	臨床心理センター実習:ケース担当実習					面接、プレイセラピー	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。		4	
3回	臨床心理センター実習:ケース担当実習					面接、プレイセラピー	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。		4	
4回	臨床心理センター実習:ケース担当実習					面接、プレイセラピー	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。		4	
5回	臨床心理センター実習:ケース担当実習					面接、プレイセラピー	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。		4	
6回	臨床心理センター実習:ケース担当実習					面接、プレイセラピー	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。		4	
7回	臨床心理センター実習:ケース担当実習					面接、プレイセラピー	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。		4	
8回	臨床心理センター実習:ケース担当実習					面接、プレイセラピー	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。		4	
9回	臨床心理センター実習:ケース担当実習					面接、プレイセラピー	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。		4	
10回	臨床心理センター実習:ケース担当実習					面接、プレイセラピー	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。		4	
11回	臨床心理センター実習:ケース担当実習					面接、プレイセラピー	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。		4	
12回	臨床心理センター実習:ケース担当実習					面接、プレイセラピー	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。		4	
13回	臨床心理センター実習:ケース担当実習					面接、プレイセラピー	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。		4	
14回	臨床心理センター実習:ケース担当実習					面接、プレイセラピー	<予習>これまでの面接を振り返っておく。 <復習>面接の内容を振り返り、記録にまとめる。		4	
15回	臨床心理センター実習:インテーク実習〔インテーク面接陪席〕					インテーク面接、ケース理解、査定	<予習>電話受付記録等を読み、ケースについて予め考えておく。 <復習>インテーク面接の記録を作り、インテーク担当者の指導を受ける。		6	
16回	臨床心理センター実習:インテーク実習〔インテーク面接陪席〕					インテーク面接、ケース理解、査定	<予習>電話受付記録等を読み、ケースについて予め考えておく。 <復習>インテーク面接の記録を作り、インテーク担当者の指導を受ける。		6	
17回	臨床心理センター実習:インテーク実習〔インテーク面接陪席〕					インテーク面接、ケース理解、査定	<予習>電話受付記録等を読み、ケースについて予め考えておく。 <復習>インテーク面接の記録を作り、インテーク担当者の指導を受ける。		6	
18回	臨床心理センター実習:インテーク実習〔インテーク面接陪席〕					インテーク面接、ケース理解、査定	<予習>電話受付記録等を読み、ケースについて予め考えておく。 <復習>インテーク面接の記録を作り、インテーク担当者の指導を受ける。		6	
19回	臨床心理センター実習:インテーク実習〔インテーク会議参加〕					インテーク会議、ケース理解	<復習>インテーク会議に提出されたケースについて、自分なりに考えをまとめる。		2	
20回	臨床心理センター実習:インテーク実習〔インテーク会議参加〕					インテーク会議、ケース理解	<復習>インテーク会議に提出されたケースについて、自分なりに考えをまとめる。		2	
21回	臨床心理センター実習:インテーク実習〔インテーク会議参加〕					インテーク会議、ケース理解	<復習>インテーク会議に提出されたケースについて、自分なりに考えをまとめる。		2	
22回	臨床心理センター実習:インテーク実習〔インテーク会議参加〕					インテーク会議、ケース理解	<復習>インテーク会議に提出されたケースについて、自分なりに考えをまとめる。		2	
23回	臨床心理センター実習:受付実習					受付、要支援者	<予習>電話受付実習での体験や指導されたことについて振り返っておく。 <復習>受付実習での体験や指導されたことについて振り返る。		4	
24回	臨床心理センター実習:受付実習					受付、要支援者	<予習>電話受付実習での体験や指導されたことについて振り返っておく。 <復習>受付実習での体験や指導されたことについて振り返る。		3	
25回	臨床心理センター実習:受付実習					受付、要支援者	<予習>電話受付実習での体験や指導されたことについて振り返っておく。 <復習>受付実習での体験や指導されたことについて振り返る。		3	
26回	臨床心理センター実習:受付実習					受付、要支援者	<予習>電話受付実習での体験や指導されたことについて振り返っておく。 <復習>受付実習での体験や指導されたことについて振り返る。		3	
27回	臨床心理センター実習:受付実習					受付、要支援者	<予習>電話受付実習での体験や指導されたことについて振り返っておく。 <復習>受付実習での体験や指導されたことについて振り返る。		3	
28回	臨床心理センター実習:心理査定実習					心理査定、ロールシャッハ、WAIS、WISC	<予習>実施する心理査定の実施法を復習しておく。また、ケース記録を読み、進め方について考えておく。<復習>実施した査定について報告書を作成する。		6	
29回	臨床心理センター実習:心理査定実習					心理査定、ロールシャッハ、WAIS、WISC	<予習>実施する心理査定の実施法を復習しておく。また、ケース記録を読み、進め方について考えておく。<復習>実施した査定について報告書を作成する。		6	
30回	外部機関実習:継続実習					医療機関、福祉機関、教育機関、要支援者、心理的支援、心理査定	<予習>様々な機関での要支援者の特性や様々な職種について学び直しておく。 <復習>実習での体験を振り返り、まとめ直しておく。		4	
31回	外部機関実習:継続実習					医療機関、福祉機関、教育機関、要支援者、心理的支援、心理査定	<予習>様々な機関での要支援者の特性や様々な職種について学び直しておく。 <復習>実習での体験を振り返り、まとめ直しておく。		4	
32回	外部機関実習:継続実習					医療機関、福祉機関、教育機関、要支援者、心理的支援、心理査定	<予習>様々な機関での要支援者の特性や様々な職種について学び直しておく。 <復習>実習での体験を振り返り、まとめ直しておく。		4	
33回	外部機関実習:継続実習					医療機関、福祉機関、教育機関、要支援者、心理的支援、心理査定	<予習>様々な機関での要支援者の特性や様々な職種について学び直しておく。 <復習>実習での体験を振り返り、まとめ直しておく。		4	
34回	外部機関実習:継続実習					医療機関、福祉機関、教育機関、要支援者、心理的支援、心理査定	<予習>様々な機関での要支援者の特性や様々な職種について学び直しておく。 <復習>実習での体験を振り返り、まとめ直しておく。		4	
35回	外部機関実習:継続実習					医療機関、福祉機関、教育機関、要支援者、心理的支援、心理査定	<予習>様々な機関での要支援者の特性や様々な職種について学び直しておく。 <復習>実習での体験を振り返り、まとめ直しておく。		4	

36 回	外部機関実習：継続実習		医療機関、福祉機関、教育機関、要支援者、心理的支援、心理査定	＜予習＞様々な機関での要支援者の特性や様々な職種について学び直しておく。 ＜復習＞実習での体験を振り返り、まとめ直しておく。	4
37 回	外部機関実習：継続実習		医療機関、福祉機関、教育機関、要支援者、心理的支援、心理査定	＜予習＞様々な機関での要支援者の特性や様々な職種について学び直しておく。 ＜復習＞実習での体験を振り返り、まとめ直しておく。	4
38 回	外部機関実習：継続実習		医療機関、福祉機関、教育機関、要支援者、心理的支援、心理査定	＜予習＞様々な機関での要支援者の特性や様々な職種について学び直しておく。 ＜復習＞実習での体験を振り返り、まとめ直しておく。	4
39 回	外部機関実習：集中実習		精神科病院、生活支援施設、要支援者	＜予習＞実習施設の特徴や利用者の特性等について予め学んでおく。 ＜復習＞観察した結果や自らの体験について報告書を作成する。	4
40 回	外部機関実習：集中実習		精神科病院、生活支援施設、要支援者	＜予習＞実習施設の特徴や利用者の特性等について予め学んでおく。 ＜復習＞観察した結果や自らの体験について報告書を作成する。	4
41 回	外部機関実習：集中実習		精神科病院、生活支援施設、要支援者	＜予習＞実習施設の特徴や利用者の特性等について予め学んでおく。 ＜復習＞観察した結果や自らの体験について報告書を作成する。	4
42 回	外部機関実習：集中実習		精神科病院、生活支援施設、要支援者	＜予習＞実習施設の特徴や利用者の特性等について予め学んでおく。 ＜復習＞観察した結果や自らの体験について報告書を作成する。	4
43 回	外部機関実習：集中実習		精神科病院、生活支援施設、要支援者	＜予習＞実習施設の特徴や利用者の特性等について予め学んでおく。 ＜復習＞観察した結果や自らの体験について報告書を作成する。	4
44 回	外部機関実習：集中実習		精神科病院、生活支援施設、要支援者	＜予習＞実習施設の特徴や利用者の特性等について予め学んでおく。 ＜復習＞観察した結果や自らの体験について報告書を作成する。	4
45 回	外部機関実習：集中実習		精神科病院、生活支援施設、要支援者	＜予習＞実習施設の特徴や利用者の特性等について予め学んでおく。 ＜復習＞観察した結果や自らの体験について報告書を作成する。	4
計					180
成 績 評 価	小テスト		学習成果のフィードバック	・それぞれの実習の振り返りや報告会等において、実習担当教員や実習先の実習指導者がフィードバックを行う。	
	試験				
	レポート	30%			
	学習態度	70%	備 考	・成績評価は、様々な実習における成績を総合的に勘案して評価する。 ・学習態度の評価基準は、実習への取り組みの態度・目的意識、担当教員や実習指導者との検討内容と理解度、臨床事例に対する理解度と対応などである。	
	その他				
	計	100%			
テ キ ス ト	・特になし。資料は、基本的にClassroomで配布する。				
テキスト以外の 参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)	1	臨床心理士をめざす大学院生のための精神科実習ガイド、津川律子・橋玲子、誠信書房、2009			
	2	レクチャー心理臨床入門、一丸麻太郎・栗原和彦編、創元社、2005			
	3	カウンセリングの実践問題、河合隼雄、誠信書房、1970			
	4	心理臨床家の手引き第3版、鎌幹八郎・名島潤慈編著、誠信書房、2010			
	5	臨床心理実習論（臨床心理学全書第4巻）、下山 晴彦 編、誠信書房、2003			
	6	方法としての面接―臨床家のために、土居 健郎、医学書院、1992			
	7	面接法、熊倉伸宏、新興医学出版社、2002			
	8				
	9				
	10				
履修上の注意事項や 学習上の助言など	・心理実践実習Ⅰの単位を取得済みであること。 ・臨床心理実習Ⅰ・Ⅱと並行して受講すること。 ・本科目では、課題の理解を深めるための情報収集や文章の推敲に生成AIを活用できる。一方個人のデータを取り扱うため、自身で十分検討することが肝要である。レポートにはAI利用の有無と範囲を明記すること。				

研究科・学 年		臨床心理学研究科 2年							
講義番号	208	教科名	学校臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)				授業形態	講義	
単位数	2	必・選	選必	開講時期	後期	担当者	小林 大介		
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照							
講義の概要 (教育目標を含む)		教育領域での臨床心理職の業務としてスクールカウンセリング、教育相談などが挙げられる。 本講義ではその中でもスクールカウンセリングの業務を中心に捉え、学校という共同体の特性、教育領域における臨床心理学的問題、集団と個人の関係等を学ぶ。 地域援助において臨床心理職として何が求められているのか、またどのように機能していくことができるのかを講義・討論の中から考えていく。 また、高等学校スクールカウンセラーとして勤務している実務家から実践紹介をして頂き、スクールカウンセラー業務の実際を学ぶ。							
学生の学習 (行動)目標		①学校というコミュニティの特徴とそこでの臨床心理学的アセスメントと援助のありかたについて理解する。 ②学齢期の児童生徒の心理的問題と学校という共同体についての理解を深める。 ③教師とのコンサルテーション、他職種・他機関との協働の手法について理解を深める。							
授業計画(シラバス)									
回	内 容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間	
1回	学校とスクールカウンセラー				スクールカウンセラー制度、学習指導要領、生徒指導提要	復習:学校SCTの記入と検討		2	
2回	学校アセスメント				学校アセスメント 学校文化	予習:トピックスに関する文献講読		2	
3回	不登校の理解と支援①				不登校	予習:トピックスに関する文献講読、担当者はレジュメ作成。		6	
4回	不登校の理解と支援②				不登校	予習:トピックスに関する文献講読、担当者はレジュメ作成。		6	
5回	いじめの理解と支援①				いじめ	予習:トピックスに関する文献講読、担当者はレジュメ作成。		6	
6回	いじめの理解と支援②				いじめ	予習:トピックスに関する文献講読、担当者はレジュメ作成。		6	
7回	特別支援教育と発達障害への支援①				特別支援教育 発達障害	予習:トピックスに関する文献講読、担当者はレジュメ作成。		6	
8回	特別支援教育と発達障害への支援②				特別支援教育 発達障害	予習:トピックスに関する文献講読、担当者はレジュメ作成。		6	
9回	非行の理解と支援				非行	予習:トピックスに関する文献講読		3	
10回	児童虐待の理解と支援				児童虐待 児童相談所 SSW	予習:トピックスに関する文献講読		3	
11回	学校における緊急支援①				緊急支援 危機介入	予習:トピックスに関する文献講読		3	
12回	学校における緊急支援②				緊急支援 危機介入	予習:トピックスに関する文献講読		2	
13回	生徒集団への支援				集団と個人 予防的援助 自殺 SOS	予習:トピックスに関する文献講読		3	
14回	教育と臨床心理士(外部講師)				教師、教育相談 連携	予習:問題意識の抽出 復習:講義後小レポート作成		3	
15回	教職員集団・保護者への支援とコンサルテーション				教職員 学校コミュニティ	予習:トピックスに関する文献講読		3	
16回									
計								60	
成 績 評 価		小テスト	0%	学習成果のフィードバック	受講生各自の発表について発表後に補足とフィードバックを行う。 提出されたリアクションペーパーについて授業中にフィードバックを行う。				
		試験	0%						
		レポート	50%						
		学習態度	20%	備 考	レポート課題:「学校臨床心理学特論の授業で学んだ内容から1つのトピックを選び、そのトピックについて ①重要だと思われるSCの役割、②自身がSCになった際に意識したいこと、取り組みたい事、を含めてまとめること」である。 学習態度:各回のテーマに沿って受講生自身がトピックスを担当し発表を行う。発表内容や討議への参加状況を評価する。 その他:授業中の発言や参加態度、レジュメ・発表の内容を総合的に評価する。				
		その他	30%						
		計	100%						
テ キ ス ト		講義にて適宜指示をする。							
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)		1	村山正治・滝口俊子(編) 現場で役立つスクールカウンセリングの実際 創元社 2012						
		2	村山正治・滝口俊子(編) 事例に学ぶスクールカウンセリングの実際 創元社 2007						
		3	子どもの心と学校臨床(雑誌) 遠見書房						
		4	生徒指導提要 文部科学省						
		5	文部科学省HP http://www.mext.go.jp/						
		6	倉光修編 臨床心理学全書第12巻 学校臨床心理学 誠信書房 2004						
		7	村瀬嘉代子監修 学校が求めるスクールカウンセラー アセスメントとコンサルテーションを中心に 遠見書房 2013						
		8	かしまえりこ・神田橋條治 スクールカウンセリング モデル100例読み取る。支える。現場の工夫 創元社 2006						
		9	石隈利紀・家近早苗 スクールカウンセリングのこれから 創元社 2021						
		10							
履修上の注意事項や学習上の助言など		・本科目では、課題の理解を深めるための情報収集や文章の推敲に生成AIを活用できる。作成するレジュメやレポートにはAI利用の有無と範囲を明記すること。							

研究科・学 年		臨床心理学研究科 2年													
講義番号		209		教科名		非行・犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)				授業形態		講義			
単位数		2		必・選		選必		開講時期		後期		担当者		☆佐藤 亨 ・ 小林 大介	
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照													
講義の概要 (教育目標を含む)		非行・犯罪を行う人や犯罪被害者の心理を理解・支援するために、関連する法制度や理論的な枠組みについて学習する。その上で、非行少年や犯罪加害者の心理や支援、犯罪被害者の心理や支援について、実践的な知見に基づいて学ぶ。													
学生の学習 (行動)目標		・犯罪や非行に関する法的な枠組みや理論について、説明できる。 ・非行や犯罪を行った人の心理について、事実に基づいて説明することができる。 ・犯罪被害者に係る法制度や心理、支援の際の留意点について説明できる。 ・非行・犯罪を行った人や犯罪被害者をどう支援していくかについて、自分なりの考えを述べることができる。													
授業計画(シラバス)															
回	内 容					キーワード			準備学習(予習・復習)の内容と分量				準備学習に要する時間		
1回	司法・犯罪に関する法律と制度その1					警察, 裁判所, 刑務所, 保護観察			予習: 大学の司法・犯罪心理学について復習する。又は参考書6～13のうちどれかに目を通す。復習: 学んだことを自分なりにノートにまとめる。				4		
2回	司法・犯罪に関する法律と制度その2					家庭裁判所, 少年鑑別所, 少年院, 保護観察, 児童自立支援施設			予習: 大学の司法・犯罪心理学について復習する。又は参考書6～13のうちどれかに目を通す。復習: 学んだことを自分なりにノートにまとめる。				4		
3回	非行・犯罪を理解するための視点～社会学的な理論～					緊張理論, 絆理論, ラベリング理論			予習: 大学の司法・犯罪心理学について復習する。又は参考書6～13のうちどれかに目を通す。復習: 学んだことを自分なりにノートにまとめる。				4		
4回	非行・犯罪を理解するための視点～生物学的・心理学的な理論～					心理学的見方, 生物学的見方			予習: 大学の司法・犯罪心理学について復習する。又は参考書6～13のうちどれかに目を通す。復習: 学んだことを自分なりにノートにまとめる。				4		
5回	非行の心理～虐待と非行～					虐待, 自己イメージ, 依存欲求, 対人信頼感			予習: 虐待についてこれまでに学んだことを復習しておく。復習: 学んだことをノート等にまとめる。				4		
6回	事例検討1(粗暴非行)－1					見立て, 支援			予習: 第1回～第5回の内容を復習しておく。復習: 授業で学んだ事例について、再度自分なりの考えをレポートにまとめる。				4		
7回	事例検討1(粗暴非行)－2					見立て, 支援			予習: 第1回～第5回の内容を復習しておく。復習: 授業で学んだ事例について、再度自分なりの考えをレポートにまとめる。				4		
8回	事例検討1(粗暴非行)－3					見立て, 支援			予習: 第1回～第5回の内容を復習しておく。復習: 授業で学んだ事例について、再度自分なりの考えをレポートにまとめる。				4		
9回	事例検討2(窃盗)－1					見立て, 支援			予習: 第1回～第5回の内容を復習しておく。復習: 授業で学んだ事例について、再度自分なりの考えをレポートにまとめる。				4		
10回	事例検討2(窃盗)－2					見立て, 支援			予習: 第1回～第5回の内容を復習しておく。復習: 授業で学んだ事例について、再度自分なりの考えをレポートにまとめる。				4		
11回	様々な非行・犯罪の心理					粗暴非行, 窃盗, 薬物事犯, 女子非行			予習: 粗暴非行, 窃盗, 薬物事犯, 女子少年の非行について自分なりに調べてまとめておく。復習: 学んだことをノート等にまとめる。				4		
12回	再犯防止のためのアプローチ					RNRモデル, GLMモデル, リラプス・プリベンション, 動機付け面接			予習: キーワードにあげられた考え方について自分なりに調べてまとめておく。復習: 学んだことをノート等にまとめる。				4		
13回	犯罪被害者の心理と支援					犯罪被害者, 被害者支援			予習: 犯罪被害者の心理や被害者支援の枠組みについて、自分なりに調べてノート等にまとめておく。復習: 学んだことをノート等にまとめる。				4		
14回	親密な関係で生じる暴力の理解と支援					DV, ストッキング, 見立て, 支援			予習: 親密な関係で生じる暴力について、自分なりの考えをノート等にまとめておく。復習: 学んだことをノート等にまとめる。				4		
15回	非行少年とどう関わるか～非行少年から学んだこと～					見立て, 行動観察			予習: 非行少年と関わる時に気を付けるべき点について自分なりに考えて、ノートにまとめておく。復習: 学んだことについて、ノート等にまとめる。				4		
16回															
計													60		
成 績 評 価		小テスト				学習成果のフィードバック		・毎回コメント票を提出させる等して、質問や学びが不十分なところについては、次の授業で補足する。レポートについては、気になった点などについて、授業の中などでフィードバックを行う。							
		試験													
		レポート		80%											
		学習態度		20%		備 考		・授業内容の理解を深めるため、レポート提出を求める。 ・学習態度は、授業中の討論及び演習に取り組む態度をもとに評価する。							
		その他													
		計		100%											
テ キ ス ト		なし。適宜プリントを配布する。													
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)		1	犯罪心理学事典, 日本犯罪心理学会編, 丸善出版, 2016												
		2	犯罪白書, 法務総合研究所編 (法務省のHPから閲覧可能)												
		3	非行少年の加害と被害, 藤岡淳子, 誠信書房, 2001												
		4	非行少年への対応と援助, 生島浩, 金剛出版, 1993												
		5	非行カウンセリング入門, 藤掛明, 金剛出版, 2002												
		6	司法・犯罪心理学(公認心理師スタンダードテキストシリーズ19), 原田隆之編著, ミネルバ書房, 2024												
		7	司法心理臨床実践(心の専門家養成講座⑩), 河野荘子編, ナカニシヤ出版, 2023												
		8	入門 犯罪心理学, 原田 隆之, 筑摩書房, 2015												
		9	司法・犯罪心理学, 藤岡淳子編, 有斐閣ブックス, 2020												
		10	司法・犯罪心理学(公認心理師の基礎と実践19), 岡本吉生編, 遠見書房, 2019												
		11	公認心理師分野別テキスト4司法犯罪分野-理論と支援の展開-, 生島浩編著, 創元社, 2019												
		12	司法・犯罪心理学(シリーズ心理学と仕事16), 桐生正幸編集, 北大路書房, 2019												
		13	司法犯罪心理学(Progress&Application14), 越智啓太著, サイエンス社, 2020												
履修上の注意事項や学習上の助言など															

研究科・学 年		臨床心理学研究科 2年						
講義番号	211	教科名	家族・地域支援心理学特論 (家族・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)				授業形態	講義
単位数	2	必・選	選必	開講時期	前期	担当者	小林 智・〇佐藤 修哉	
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照						
講義の概要 (教育目標を含む)		家族や地域を含んだ対人関係システムの臨床心理学的支援に関する基本的な概念と対人関係システムに関する理論への理解を基礎として、実際に行なわれているさまざまな地域支援における臨床心理学的アプローチについて学修する。						
学生の学習 (行動)目標		1. 臨床的地域支援に関する基本のおよび実践の考え方について理解できる。 2. 家族・地域・その他組織における対人関係の包括的に理解に向けて、システム論に基づいたアセスメントと支援方法の習得を目指す。 3. 上記2点の学修成果を模擬事例における支援計画の立案において柔軟に活用する。						
授業計画(シラバス)								
回	内 容				キーワード	準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1回	社会システムへの支援における基本的視点【オンデマンド】				環境主義・唯物史観・全体論(ゲシュタルト)・システム	＜復習＞テキストと資料に基づき、基本的な概念を中心にノートを整理する		4
2回	精神医学・心理支援の歴史と社会的状況【オンデマンド】				精神医学史・社会資源・道徳療法・人文主義	＜復習＞テキストと資料に基づき、基本的な概念を中心にノートを整理する		4
3回	対人支援における心理学モデルと社会モデル(1)【オンデマンド】				進歩主義・社会進化論・EBM・実存主義・生権力・治療的退行・社会モデル	＜復習＞テキストと資料に基づきノートを整理する		4
4回	対人支援における心理学モデルと社会モデル(2)				認知行動療法・フロイト精神分析・ユング分析心理学・ブリーフセラピー	＜復習＞テキストと資料に基づきノートを整理する		4
5回	対人システムに介入する心理療法【オンデマンド】				論理実証主義・言語論的転回・プラグマティズム・コミュニケーション語用論	＜復習＞テキストと資料に基づきノートを整理する		4
6回	システミックアプローチの歴史【レジュメ発表】				家族病理・反精神医学運動・生活臨床・フェミニズム	＜予習・復習＞テキストと資料に基づき発表レジュメを作成する		4
7回	システミックアプローチの理論【レジュメ発表】				システム論・円環的因果律・社会構成主義・ナラティブ	＜予習・復習＞テキストと資料に基づき発表レジュメを作成する		4
8回	システミックアプローチの実践モデル【レジュメ発表】				MRIモデル・BFTCモデル・二重記述モデル・家族療法	＜予習・復習＞テキストと資料に基づき発表レジュメを作成する		4
9回	システミックアプローチの実践(1)				システムズアプローチ・ブリッジ・ケースフォーミュレーション・介入	＜復習＞参考書と資料に基づき、基本的な概念を中心にノートを整理する		4
10回	システミックアプローチの実践(2)				リフレクティングプロセス・ロールプレイ・家族合同面接	＜復習＞参考書と資料に基づき、基本的な概念を中心にノートを整理する		4
11回	コミュニティ・アプローチの基本理念と理論				コミュニティ感覚、ボストン会議、予防的アプローチ、地域臨床、エンパワメント	＜予習＞キーワードの用語について整理しておく ＜復習＞参考書と資料に基づき、基本的な概念を中心にノートを整理する		4
12回	コミュニティのアセスメント、介入、評価				コミュニティ・リサーチ、生態学的視点、アクション・リサーチ	＜予習＞担当者は発表レジュメを作成する ＜復習＞参考書と資料に基づき、基本的な概念を中心にノートを整理する		4
13回	連携による支援				コンサルテーション、コラボレーション、リエゾン	＜予習＞担当者は発表レジュメを作成する ＜復習＞参考書と資料に基づき、基本的な概念を中心にノートを整理する		4
14回	集団や組織へのアプローチ				危機介入、グループダイナミクスアプローチ、集団凝集性、リーダーシップ、集団バイアス、地域介入、組織介入、学校、職場	＜予習＞担当者は発表レジュメを作成する ＜復習＞参考書と資料に基づき、基本的な概念を中心にノートを整理する		4
15回	多様性へのアプローチ				文化、人種、ジェンダー、宗教、価値観(教育、職業、経済等)、障害	＜予習＞担当者は発表レジュメを作成する ＜復習＞参考書と資料に基づき、基本的な概念を中心にノートを整理する		4
16回								
計								60
成績評価		小テスト		学習成果のフィードバック	コメントペーパーやレポートの記載内容について授業中にフィードバックする			
		試験						
		レポート	60%					
		学習態度	40%	備考	システム論に立脚した臨床心理学的支援についての調べ学習レポートを課す。 各授業回のテーマについてコメントペーパーを課し、その提出状況や記載内容を学習態度の評価に用いる。			
		その他						
		計	100%					
テキスト		家族療法テキストブック 日本家族研究・家族療法学会編 金剛出版 (6160円)						
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)		1	「心理療法の交差点」 岡昌之・生田倫子・妙木和之編著 新曜社					
		2	人間コミュニケーションの語用論 ポール・ワツラヴィック(著) 尾川丈一(訳) 二瓶社					
		3	「家族療法リソースブック」 日本家族研究・家族療法学会(編) 金剛出版					
		4	「心理療法の交差点2」 岡昌之・生田倫子・妙木和之編著 新曜社					
		5	「心理専門職の連携・協働」 鶴光代 津川律子(編) 誠信書房					
		6	「コミュニティ心理学ハンドブック」日本コミュニティ心理学会編 東京大学出版会					
		7	久田満・丹羽都夫(2022) . コミュニティ心理学シリーズ第2巻 コンサルテーションとコラボレーション 金子書房					
		8	原裕視(監)高橋浩(編)(2024) . 実践コミュニティアプローチ―対人支援職が行うシステム論的心理社会支援― 金子書房					
		9	J.ダルトン・M.イライアス、A.ウォンダースマン(著)笹尾敏明(訳)(2007). コミュニティ心理学―個人とコミュニティを結ぶ実践人間科学― 金子書房					
		10	窪田由紀・森田美弥子・氏家達夫(監)河野莊子・金子一史・清川幸子(編)(2019). こころの危機への心理学的アプローチ―個人・コミュニティ・社会の観点から― 金剛出版					
履修上の注意事項や学習上の助言など		課題の理解を深めるための情報収集や文章の推敲に生成AIを活用できる。ただし、収集された情報にハルシネーションリスクがあることを理解し、情報源を必ず確認すること。また、課題作成に直接的に引用する場合は、プロンプトと引用の範囲を明記すること。実際の臨床においてはクライアントに応答するのはAIではなく自分自身であることを自覚した上で課題にどの程度AIを活用するかを検討すること。						

研究科・学年		臨床心理学研究科 1・2年							
講義番号	212	教科名	障害者(児)心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)				授業形態	講義	
単位数	2	必・選	選必	開講時期	前期	担当者	引土 達雄		
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照							
講義の概要 (教育目標を含む)		人は障害や疾病によって生活が制約されることがあります。どんな障害であっても、生活するにあたって、感じる苦難や課題は多様です。心理職としての支援を考える上で、障害という事象をもとに、どのような苦難を感じやすいかについて想像し、理解していく姿勢が求められます。本講義では、障害の特徴と当事者の心性について理解し、支援について考えてくための前提としての基本的な知識を身につけられることを目標とします。							
学生の学習 (行動)目標		① 障害児(者)の支援・教育について基礎的なことを説明できる。 ② 障害児(者)の様々な障害について基礎的なことを説明できる。							
授業計画(シラバス)									
回	内 容				キーワード		準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1回	障害者(児)心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)の概要				国際生活機能分類＜ICF＞、障害者総合支援法、児童福祉法、精神疾患の診断分類・診断基準		＜予習＞障害者・障害児心理学について書籍等で調べること。 ＜復習＞授業内で配布・紹介した障害者・障害児心理学について復習する。		4
2回	障害を受け止めることとその支援				告知後の心理的变化、親による障害の受け止め、きょうだいによる障害の受け止め、社会の障害の受け止め		＜予習＞障害の受容について書籍等で調べること。 ＜復習＞授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児への支援と教育について復習する。		4
3回	知的障害とその支援				知的障害、知的障害者福祉法、療育手帳制度		＜予習＞知的障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 ＜復習＞授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。		4
4回	注意欠如多動性障害とその支援				注意欠如多動性障害＜ADHD＞、成人の発達障害		＜予習＞注意欠如多動性障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 ＜復習＞授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。		4
5回	限局性学習障害とその支援				限局性学習障害＜SLD＞、読字障害、書字表出障害		＜予習＞限局性学習障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 ＜復習＞授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。		4
6回	身体障害とその支援				身体障害、肢体不自由、脳性まひ、筋ジストロフィー		＜予習＞身体障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 ＜復習＞授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。		4
7回	小児慢性特定疾患・指定難病とその支援				小児慢性特定疾患、小児慢性特定疾患を持つ子どもの生活、指定難病		＜予習＞小児慢性特定疾患・指定難病のある方とその家族への支援について書籍等で調べること。 ＜復習＞授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。		4
8回	高次脳機能障害とその支援				高次脳機能障害、失語・失行・失認、日常生活動作＜ADL＞		＜予習＞高次脳機能障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 ＜復習＞授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。		4
9回	発達障害、発達障害者支援法、自閉症スペクトラム障害＜ASD＞とその支援①				発達障害、発達障害者支援法、自閉症スペクトラム障害＜ASD＞		＜予習＞発達障害・自閉症スペクトラム障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 ＜復習＞授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。		4
10回	自閉症スペクトラム障害とその支援＜ASD＞②				発達障害、発達障害者支援法、自閉症スペクトラム障害＜ASD＞		＜予習＞発達障害・自閉症スペクトラム障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 ＜復習＞授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。		4
11回	視覚障害とその支援				視覚障害、視覚障害児の発達の特徴、視覚障害者(児)への支援		＜予習＞視覚障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 ＜復習＞授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。		4
12回	聴覚障害とその支援				聴覚障害、聴覚障害児の発達の特徴、聴覚障害者(児)への支援		＜予習＞聴覚障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 ＜復習＞授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。		4
13回	精神障害とその支援①				精神障害、精神保健福祉法、アセスメント、統合失調症		＜予習＞精神障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 ＜復習＞授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。		4
14回	精神障害とその支援②				気分障害、うつ病、双極性障害、認知行動療法		＜予習＞精神障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 ＜復習＞授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。		4
15回	精神障害とその支援③ まとめ				人格障害、不安障害		＜予習＞精神障害のある方と家族への支援について書籍等で調べること。 ＜復習＞授業内で配布・紹介した教材を活用して障害者・障害児の親・家族への支援について復習する。		4
16回									
計									60

成績評価	小テスト	0%	学習成果のフィードバック	各授業でリアクションペーパーの配布と回収を行い、次回の授業時にフィードバックが行われる。興味関心が院生間で集中している場合は、授業時間中にその分野について説明を行う。
	試験	0%		
	レポート	60%		
	学習態度	40%	備考	※講義では、受講人数の様子を見て、いくつかのグループを作り、ディスカッションを行いその内容をまとめて発表してもらうことを予定している。学習態度は、授業への積極的参加20%、発表形式講義への参加20%から総合的に判断する。 ※レポートは、期間中2回課す。レポート①:7回目終了時点で課す。テーマは、第1回～第7回までに扱った内容(それぞれの障害の当事者が感じやすいと想定される苦難とその支援)。レポート②:15回目終了時に課す。テーマは、8回目～第15回目までに扱った内容(それぞれの障害の当事者が感じやすいと想定される苦難とその支援)についてのレポートを課す。
	その他	0%		
	計	100%		
テキスト	不要			
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)	1	シリーズ心理学と仕事 障害者心理学 太田信夫(監修) 北大路書房 2017		
	2	公認心理師の基礎と実践 障害者・障害児心理学 柘植雅義 他(編) 遠見書房 2020		
	3	視覚障害教育に携わる方のために 香川邦夫(編著) 慶応義塾大学出版 2016(五訂版)		
	4	聴覚障害者の心理臨床 村瀬佳代子・河崎佳子(編著) 日本評論社 2008		
	5	肢体不自由児の医療・療育・教育 篠田達明(監修) 金芳堂 2015(第3版)		
	6	「こころ」の本質とは何か 滝川一廣 筑摩書房 2009		
	7	高次脳機能障害の理解と診察 平山和美(編著) 中外医学社 2017		
	8	発達障害児者支援とアセスメントのガイドライン 辻井正次(監修) 金子書房 2014		
	9	特別支援教育の基礎・基本2020 国立特別支援教育総合研究所 ジアース教育新社 2020		
	10			
履修上の注意事項や 学習上の助言など	課題の理解を深めるための情報収集や文章の推敲に生成AIを活用できる。ただし、収集された情報にハルシネーションリスクがあることを理解し、情報源を必ず確認すること。また、課題作成に直接的に引用する場合は、プロンプトと引用の範囲を明記すること。実際の臨床においてはクライアントに応答するのはAIではなく自分自身であることを自覚した上で課題にどの程度AIを活用するかを検討すること。			

研究科・学 年		臨床心理学研究科 1・2年							
講義番号	213	教科名	メンタルヘルス特論(心の健康教育に関する理論と実践)				授業形態	講義	
単位数	2	必・選	選必	開講時期	前期	担当者	○齋藤 恵美・○佐藤 修哉		
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照							
講義の概要 (教育目標を含む)		メンタルヘルスとは、心の健康を意味する。人間は生きていく上で、誰もがさまざまなストレスに曝されている。この授業では、メンタルヘルスの保持・増進を達成するための諸理論や実践力を身につけることを目標としている。 メンタルヘルスを保つためには、心の健康教育が不可欠であり、はじめに心理教育の実践において基礎となる心の健康とストレスの関連について諸理論を学ぶ。また、心の健康教育は、子どもから老人を含む大人まで幅広い年代、かつ、保健医療、福祉、教育、産業・労働、司法・犯罪といった臨床実践の各分野でも重要である。したがって、心理専門職として身につけておく必要のある知識やスキルは多岐にわたることから、多様な実践例や架空事例を通じて、学びを深めていく。 基礎事項を学んだ後に、小グループに分かれ、心の健康教育プログラムを作成する。作成したプログラムをロールプレイ等により試行したうえで、ディスカッションを行い、実践力を高める。							
学生の学習 (行動)目標		1. 健康教育・健康増進に関する理論を概説できる 2. 心の健康教育の生物・心理・社会的必要性を判断できる 3. 集団を対象とした心の健康教育を計画・実践する技術を習得する							
授業計画(シラバス)									
回	内 容				キーワード		準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1回	イントロダクション：心の健康教育と心理職の役割				心理教育、健康日本21、健康観、ウェルビーイング		復習：授業内容をノートに各自まとめること		4
2回	心の健康教育に関する理論と実践例(1)産業保健分野				予防、健康行動理論、行動変容		復習：授業内容をノートに各自まとめること		4
3回	心の健康教育に関する理論と実践例(2)産業保健分野				ストレスマネジメント、セルフ・モニタリング、行動活性化		復習：授業内容をノートに各自まとめること		4
4回	心の健康教育に関する理論と実践例(3)その他の分野				問題解決技法、アサーション・トレーニング		復習：授業内容をノートに各自まとめること		4
5回	心の健康教育のプログラム立案(1)				うつ、不安、怒り、バーンアウト		予習：プログラム企画立案のための資料を収集すること		4
6回	心の健康教育のプログラム立案(2)				健康問題、生活習慣、依存・嗜癖		予習：プログラム企画立案のための資料を収集すること		4
7回	心の健康教育の実践(1)				セルフケア教育、メンタルヘルス研修		予習：プログラム実践の準備をすること 復習：プログラムの改善点、優れていた点についてまとめること		4
8回	心の健康教育の実践(2)				心理教育、家族教室		予習：プログラム実践の準備をすること 復習：プログラムの改善点、優れていた点についてまとめること		4
9回	心の健康教育に関する理論と実践例(4)教育分野				いじめ予防、エンカウンター、SEL、生徒指導提要		予習：学校適応のための予防教育について調べること 復習：授業内容をノートに各自まとめること		4
10回	心の健康教育に関する理論と実践例(5)教育分野				メンタルヘルス・リテラシー、援助要請、セルフケア、スティグマ		予習：SOS出し方教育について調べること 復習：授業内容をノートに各自まとめること		4
11回	心の健康教育に関する理論と実践例(6)その他の分野				発達アセスメント、生活習慣病、自殺予防、子育て支援、SST、災害支援		予習：キーワードや当該分野の関連事項について調べ、まとめること 復習：授業内容をノートに各自まとめること		4
12回	心の健康教育のプログラム立案(3)教育分野				発達支持的生徒指導、課題予防的生徒指導、疾病教育、疾病理解		予習：プログラム企画立案のための資料を収集すること		4
13回	心の健康教育のプログラム立案(4)教育分野				介入デザイン、アセスメント、尺度		予習：プログラム企画立案のための資料を収集すること		4
14回	心の健康教育の実践(3)教育分野				集団への介入、個人への介入		予習：プログラム実践の準備をすること 復習：プログラムの改善点、優れていた点についてまとめること		4
15回	心の健康教育の実践(4)教育分野				効果検証、縦断調査、横断調査、多変量解析		予習：プログラム実践の準備をすること 復習：プログラムの改善点、優れていた点についてまとめること		4
16回									
計									60
成 績 評 価		小テスト		学習成果のフィードバック	出席者の発言やリアクションペーパー、発表内容等について授業内で教員がコメントする				
		試験							
		レポート	40%						
		学習態度	20%	備考	・講義内容の理解を深めるため、リアクションペーパー及びレポートの提出を求める。 ・学習態度については、ディスカッションやグループワークにおける積極的な発言を評価する。 ・その他については、プログラム実践の内容を評価する。				
		その他	40%						
		計	100%						
テキスト		なし。適宜プリントを配布する							
テキスト以外の参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)		1	心の健康教育ハンドブック—ここからでも健康な生活を送るために—坂野雄二・百々尚美・本谷亮 金剛出版 2021						
		2	心の健康教育(コミュニティ心理学シリーズ1) 久田満 金子書房 2021						
		3	学校、職場、地域におけるストレスマネジメント実践マニュアル 坂野雄二(監修) 嶋田洋徳・鈴木伸一(編著) 北大路書房 2004						
		4	職場のストレスマネジメント—セルフケア教育の企画・実施マニュアル— 島津明人(編著) 誠信書房 2014						
		5	健康行動理論による研究と実践 一般社団法人日本健康教育学会 医学書院 2019						
		6	学校におけるメンタルヘルス教育の進め方 水野雅文・森良一・竹下君枝 大修館書店 2023						
		7	ソーシャル・エモーショナル・ラーニング(SEL)—非認知能力を育てるフレームワーク— 渡辺弥生・小泉令三 福村出版 2022						
		8	いじめ予防スキルアップガイド—エビデンスに基づく安心・安全な学校づくりの実践— 飯田順子・杉本希映・青山郁子・遠藤寛子(編著) 金子書房 2021						
		9	チーム学校での効果的な援助—学校心理学の最前線— 水野治久・家近早苗・石隈利紀(編) ナカニシヤ出版 2018						
		10	援助要請の心理学に基づく実践SOSの出し方教育 水野治久・本田真大・永井智(編著) 金子書房 2025						
履修上の注意事項や学習上の助言など		授業資料の配布方法 配布資料のうち重要なものは教員が印刷して配布するが、補助資料はLMSからダウンロードすること。 生成AIの利用方針 本科目では、課題の理解を深めるための情報収集や文章の推敲に生成AIを活用できる。発表資料やレポートにはAI利用の有無と範囲を明記すること。							

研究科・学 年		臨床心理学研究科 1・2年							
講義番号	214	教科名	精神分析学特論				授業形態	講義	
単位数	2	必・選	選必	開講時期	前期集中	担当者	☆大森 智恵		
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照							
講義の概要 (教育目標を含む)		「精神分析」とはどのようなものなのか、精神分析学の歴史的な流れを概観し、人名や専門用語も含めた各理論について理解する。特に、フロイトの心理学、自我心理学、対象関係論について理解を深める。							
学生の学習 (行動)目標		精神分析の重要な概念や専門用語について簡潔に説明することができる。また、実際の事例について議論する際に、精神分析的な視点から理解することができる。							
授業計画(シラバス)									
回	内 容				キーワード		準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に要する時間
1回	導入				導入		具体的な講義に入る前に、「テキスト」を読んでおくこと。		12
2回	「精神分析」とは				精神分析の位置づけ		上記の通り		2
3回	「精神分析という営み」とは				精神分析の「場」とプロセス		上記の通り		2
4回	歴史と定義				催眠、自由連想、歴史		上記の通り		4
5回	構造論				自我、エス、超自我		上記の通り		4
6回	力動的観点：自我の諸機能				現実機能、防衛機能、適応機能		上記の通り		4
7回	力動的観点：自我の諸機制				防衛機制、抑圧、否認		上記の通り		4
8回	心の病理と退行				退行		上記の通り		4
9回	フロイトと自我心理学の発達論				発達段階		上記の通り		4
10回	対象関係の発達				良い対象、悪い対象		上記の通り		4
11回	マラーの分離—個体化の発達				乳幼児期の発達		上記の通り		4
12回	スターンの発達論				新生自己感		上記の通り		4
13回	境界的人格構造				カーンバーグ、原始的防衛機制		上記の通り		4
14回	事例研究1				心理療法の実践における基本的理解		グループに分かれて事例の理解を深める。その後、各グループごとに発表を行う。		2
15回	事例研究2				心理療法の実践における基本的理解		上記の通り		2
16回	予備日								
計									60
成 績 評 価		小テスト		学習成果のフィードバック		コメントやディスカッションに対し、授業内で教員からコメントが与えられる。			
		試験							
		レポート	50%						
		学習態度	50%	備 考		レポート：講義やディスカッションを通して学んだこと、および考えたことなどを書いたレジュメ(A4 1枚)を評価する。 学習態度：ディスカッションへの態度について評価する。			
		その他							
		計	100%						
テキスト		馬場禮子著 2016年「精神分析的人格理論の基礎 心理療法を始める前に」 岩崎学術出版社 3080円							
テキスト以外の 参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)		1							
		2							
		3							
		4							
		5							
		6							
		7							
		8							
		9							
		10							
履修上の注意事項や 学習上の助言など		積極的なコメントおよびディスカッションが求められます。							

研究科・学 年		臨床心理学研究科 2年							
講義番号	302	教科名	特定課題研究Ⅱ			授業形態	演習		
単位数	2	必・選	必修	開講時期	通年	担当者	伊藤 真理子・碓井真史・本間恵美子・浅田剛正・宮澤淳滋・引土達雄・小林智・小林大介		
DP(ディプロマ・ポリシー)との関連		冊子の最後にある対照表を参照							
講義の概要 (教育目標を含む)		研究テーマを具体的に絞込み、先行研究の流れにおける自己の研究の位置づけを行なうと共に、それに沿った研究計画を策定する。 データの収集・分析などを行い、修士論文を執筆する。							
学生の学習 (行動)目標		・修士論文のテーマを臨床心理学的意義を考慮しながら設定できる。 ・修士論文を作成するにあたって適切な文献を選択でき、その内容を理解できる。 ・修士論文を作成するために適切な研究方法を選択し、それを理解、実施できる。 ・修士論文作成についてディスカッションを通して検討できる。 ・修士論文作成に必要な倫理的配慮を理解し、実施できる。 ・収集したデータについて適切な方法を用いて分析し、その結果をわかりやすく、臨床心理学的な意義を含めて示すことができる。							
授業計画(シラバス)									
回	内 容				キーワード		準備学習(予習・復習)の内容と分量		準備学習に 要する時間
1回	研究計画に合わせて資料の収集や論文作成をゼミ形式で行なう。				研究計画、資料収集、討論		研究計画、研究実施の準備、資料収集		4
2回	〃				〃		〃		4
3回	修士論文中間発表会を開催し、発表・質疑応答により研究計画を精緻化する。				研究計画の精緻化、討論		発表資料の準備		4
4回	研究計画に合わせて資料の収集と分析、論文作成をゼミ形式で行なう。				研究計画の実施、データ分析、討論		研究の実施、データ分析と論文作成のための準備		4
5回	〃				〃		〃		4
6回	〃				〃		〃		4
7回	〃				〃		〃		4
8回	〃				〃		〃		4
9回	〃				〃		〃		4
10回	〃				〃		〃		4
11回	〃				〃		〃		4
12回	〃				〃		〃		4
13回	〃				〃		〃		4
14回	〃				〃		〃		4
15回	〃				〃		〃		4
16回	〃				〃		〃		4
17回	〃				〃		〃		4
18回	〃				〃		〃		4
19回	〃				〃		〃		4
20回	〃				〃		〃		4
21回	〃				〃		〃		4
22回	〃				〃		〃		4
23回	〃				〃		〃		4
24回	論文執筆と内容の検討				論文作成		データのまとめと論文作成		4
25回	〃				〃		〃		4
26回	〃				〃		〃		4
27回	〃				〃		〃		4
28回	〃				〃		〃		4
29回	〃				〃		〃		4
30回	修士論文発表会を開催し、口頭試問を行なう。				修士論文、討論		論文発表準備		4
計									120
成 績 評 価	小テスト		学習成果のフィードバック	研究発表についてのフィードバックは研究発表会およびゼミで行う。 研究計画やデータ分析、論文作成を行うゼミの中で適宜フィードバックを行う。					
	試験								
	レポート								
	学習態度	30%	備 考	学習態度はゼミへの準備、ディスカッションへの参加状況による。 その他は修士論文への取り組み、内容による。					
	その他	70%							
	計	100%							
テ キ ス ト	特に指定はないが、指導教員によって適宜紹介する。								

テキスト以外の 参考書 (番号は、推薦順) (図書館備付)	1	「臨床心理学研究法」全8巻 下山晴彦編 新曜社
	2	「臨床心理学研究の技法」W. J. レイ著 北大路書房
	3	「事例に学ぶ 心理学者のための研究倫理」安藤寿康・安藤典明編 ナカニシヤ出版
	4	「APA論文作成マニュアル」アメリカ心理学会著 医学書院
	5	「社会調査の考え方」(上・下)佐藤郁哉著 東京大学出版会
	6	「心理学論文の書き方」松井豊著 河出書房新社
	7	「臨床心理研究法」岩壁茂・杉浦義典編 東京大学出版会
	8	「はじめて学ぶ臨床心理学の質的研究:方法とプロセス」岩壁茂著 岩崎学術出版社
	9	「人間科学のための混合研究法」J. W. クレスウェル・V. L. ブラノクラーク著 北大路書房
	10	「心理学研究法入門」南風原朝和・市川伸一・下山晴彦編 東京大学出版会
履修上の注意事項や 学習上の助言など	* 論文作成のための情報収集や文章の推敲に生成AIを活用することができる。ただし、提出物は必ず自身の思考によるものとし、AI利用の有無と範囲を明記すること。	

大学院臨床心理学研究科教員名簿

(1) 専任教員

職 名	氏 名
研究科長・教授	伊藤 真理子
教授	碓井 真史
教授	本間 恵美子
教授	浅田 剛正
准教授	引土 達雄
准教授	宮澤 淳滋
准教授	小林 智
准教授	小林 大介
助手	本間 成恵

(2) 非常勤教員

氏 名
大森 智恵
● 齋藤 智
○ 齋藤 恵美
○ 佐藤 修哉
佐藤 亨
○ 関谷 昭吉
中村 協子
○ 新國 佳祐
朴 秀賢
○ 真壁 あさみ
● 宮崎 隆穂

※50音順

○新潟青陵大学学部専任教員、他研究科専任教員

●新潟青陵大学短期大学部専任教員

【大学院】2026年度授業暦			
日 程	主な予定	日程	実習・その他の予定
4月2日(木)	入学式／オリエンテーション ～7日(火) ※履修登録期間 4月3日(金)～7日(火)		
4月8日(水)	前期授業開始		
4月30日(木)	M2 修士論文中間発表会	4月23日(木)	創立記念日※通常授業日
4月30日(木)	M1 研究計画書提出(17時まで)		
6月4日(木)	修論倫理審査提出期限	5月～9月	M2 継続実習
6月※	防災訓練(実施日未定)	6月27日(土)	大学院学内特別選考／大学院説明会
7月30日(木)	前期定期試験期間 ～8月5日(水)		
8月6日(木)	3.4限：M1 修士論文構想発表会	8月～9月	M1 見学実習
8月12日(水)	夏期休業 ～9月27日(日)		
8月20日(木)	3.4限：集中実習オリエンテーション①(M2)		
9月2日(水)	集中講義「精神分析学特論」 ～9月4日(金)	9月12日(土)	大学院一次募集入試
9月10日(木)	3.4限：集中実習オリエンテーション②(M2)		
9月※	集中講義「精神保健医学特論」		
9月24日(木)	1限：後期オリエンテーション/ケース終了オリエンテーション ※履修登録期間 9月24日・25日		
9月24日(木)	3.4限：継続実習報告会(発表者はM2、M1も参加必須)		
9月28日(月)	後期授業開始		
11月12日(木)	M2 修士論文題目提出期日 16時まで	10月～12月	M2 集中実習
		11月28日(土)	大学院二次募集入試
12月9日(水)	M2 修士論文提出期日 16時まで		
12月18日(金)	午前：M1 修士論文中間発表会 午後：M2 修士論文発表会		
12月26日(土)	冬期休業 ～1月4日(月)		
1月14日(木)	15時～：継続実習オリエンテーション①(M1)		
1月18日(月)	2限：M2 修了試験		
1月28日(木)	3.4限：集中実習報告会(発表：M2、M1も参加必須)		
2月1日(月)	後期定期試験期間 ～2月5日(金)		
2月4日(木)	1.2限：ケース報告会(報告：M2、M1も参加必須)		
3月※	修了者名発表		
3月4日(木)	3.4限：継続実習オリエンテーション②(M1)		
3月18日(木)	修了式(PM)		
3月19日(金)	春期休業 ～31日(水)		
	※の予定については、後日詳細な日時を決定・連絡		

修了判定スケジュール		入試スケジュール(※登校禁止日)	
4月30日(木)	M2 修士論文中間発表会	6月27日(Sat)	大学院入試[学内選考]・説明会
4月30日(木)	M1 研究計画書提出(17時まで)	9月12日(Sat)	大学院・3年次編入試[1次]
6月4日(木)	修論倫理審査提出期限	10月17・18日	総合型選抜[I期](大学・短大)
8月6日(木)	3.4限：M1 修士論文構想発表会	11月21日(Sat)	学校推薦型選抜(大学・短大)
11月12日(木)	M2 修士論文題目提出期日 16時まで	11月28日(Sat)	3年次編入／大学院入試[2次]
12月9日(水)	M2 修士論文提出期日 16時まで	12月19日(Sat)	総合型選抜[II期](大学・短大)
12月18日(金)	M1M2 修士論文発表会	1月16・17日	大学入学共通テスト
1月18日(月)	2限：M2 修了試験	1月23・24日	大学入学共通テスト再試日
		2月6日(Sat)	大学一般選抜

修了及び資格受験資格要件

授 業 科 目	講義 番号	授業 年次	単 位			修了 要件	臨床 心理士	公認 心理師	備 考
			必修	選択 必修	選択				
臨床心理学特論Ⅰ	101	1	2			◎	◎		
臨床心理学特論Ⅱ	102	1	2			◎	◎		
臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)	103	1	2			◎	◎	◎	
臨床心理面接特論Ⅱ	104	1	2			◎	◎		
臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)	105	1	2			◎	◎	◎	
臨床心理査定演習Ⅱ	106	1	2			◎	◎		
臨床心理基礎実習Ⅰ	107	1	2			◎	◎		
臨床心理基礎実習Ⅱ	108	1	2			◎	◎		
臨床心理実習Ⅰ	109	2	1			◎	◎		
臨床心理実習Ⅱ	110	2	1			◎	◎		
臨床心理演習Ⅰ	201	1		4		○	E		
臨床心理演習Ⅱ	202	2		4		○	E		
心理実践実習Ⅰ	203	1		4		○		◎	
心理実践実習Ⅱ	204	2		6		○		◎	
臨床心理学研究法特論	205	1		2		○	A		
心理学研究法演習	206	1		2		○	A		
臨床心理倫理特論	207	1		2		○	A		
人格心理学特論	208	2		2		○	B		2024年度 入学生まで
精神保健医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	209	1		2		○	D	◎	
障害者(児)心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)	210	1・2		2		○	D	◎	
学校臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)	211	2		2		○	B	◎	
非行・犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	212	2		2		○	C	◎	
産業保健心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	213	1		2		○	C	◎	
家族・地域支援心理学特論(家族・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	214	1		2		○	C	◎	
メンタルヘルス特論(心の健康教育に関する理論と実践)	216	1		2		○	D	◎	
精神分析学特論	217	1・2		2		○	E		
認知行動療法特論	218	2		2		○	D		2024年度 入学生まで
コミュニティ・アプローチ特論	219	2		2		○	C		2024年度 入学生まで
特定課題研究Ⅰ	301	1	2			◎			
特定課題研究Ⅱ	302	2	2			◎			

◎は必修 ○は選択必修 アルファベットは臨床心理士受験資格のための各群

◇修了要件 必修科目全て22単位 選択必修科目の中から8単位以上 合計30単位以上

☆臨床心理士受験資格 必修科目全て A～Eの各群からそれぞれ2単位以上

★公認心理師受験資格(大学院段階) ◎の付いた科目全て

※公認心理師については大学で必要な科目の単位取得の要件を満たしている必要あり

臨床心理学研究科ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表(2026(R8)年度入学生)

■臨床心理学研究科

授 業 科 目	科目 区分	授業年 次	DP1 臨床心理学の専門家としての臨床 実践力および倫理観を身に付けている。	DP2 臨床実践に基づいた臨床心理学 的知識と視点、心理学及び関連領域の 高度専門的知識を身につけている。	DP3 臨床心理学の発展に寄与する研 究を実践し、その内容を適切に伝える力 を身につけている。	DP4 臨床心理士及び関連領域の専門 職と連携・協働し、地域の臨床心理学的 問題の解決に寄与する力を身につけて いる。
臨床心理学特論Ⅰ	必修 科目	1		◎	○	
臨床心理学特論Ⅱ		1		◎	○	
臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援 に関する理論と実践)		1	◎	○		○
臨床心理面接特論Ⅱ		1	◎	○		○
臨床心理査定演習Ⅰ(心理的ア セスメントに関する理論と実践)		1	◎	○		
臨床心理査定演習Ⅱ		1	◎	○		
臨床心理基礎実習Ⅰ		1	◎	○		
臨床心理基礎実習Ⅱ		1	◎	○		
臨床心理実習Ⅰ		2	◎			◎
臨床心理実習Ⅱ		2	◎			◎
特定課題研究Ⅰ		1			◎	
特定課題研究Ⅱ		2			◎	
臨床心理演習Ⅰ	選択 必修 科目	1	◎	○		
臨床心理演習Ⅱ		2	◎	○		
心理実践実習Ⅰ		1	○	○		◎
心理実践実習Ⅱ		2	○	○		◎
臨床心理学研究法特論		1		○	◎	
心理学研究法演習		1		○	◎	
精神保健医学特論(保健医療分 野に関する理論と支援の展開)		1	○	◎		○
学校臨床心理学特論(教育分野 に関する理論と支援の展開)		2	○	◎		○
非行・犯罪心理学特論(司法・犯 罪分野に関する理論と支援の展 開)		2	○	◎		○
産業保健心理学特論(産業・労働 分野に関する理論と支援の展開)		1	○	◎		○
家族・地域支援心理学特論(家 族・集団・地域社会における心理 支援に関する理論と実践)		2	○	○		◎
障害者(児)心理学特論(福祉分 野に関する理論と支援の展開)		1・2	○	◎		○
メンタルヘルス特論(心の健康教 育に関する理論と実践)		1・2	○	◎		○
精神分析学特論		1・2	○	◎		

臨床心理学研究科ディプロマ・ポリシーとカリキュラムとの対照表(2025(R7)年度入学生)

■臨床心理学研究科

授 業 科 目	科目 区分	授業年 次	DP1 臨床心理学の専門家としての臨床 実践力および倫理観を身に付けている。	DP2 臨床実践に基づいた臨床心理学 的知識と視点、心理学及び関連領域の 高度専門的知識を身に付けている。	DP3 臨床心理学の発展に寄与する研 究を実践し、その内容を適切に伝える力 を身に付けている。	DP4 臨床心理士及び関連領域の専門 職と連携・協働し、地域の臨床心理学的 問題の解決に寄与する力を身につけて いる。
臨床心理学特論Ⅰ	必修 科目	1		◎	○	
臨床心理学特論Ⅱ		1		◎	○	
臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援 に関する理論と実践)		1	◎	○		○
臨床心理面接特論Ⅱ		1	◎	○		○
臨床心理査定演習Ⅰ(心理的ア セスメントに関する理論と実践)		1	◎	○		
臨床心理査定演習Ⅱ		1	◎	○		
臨床心理基礎実習Ⅰ		1	◎	○		
臨床心理基礎実習Ⅱ		1	◎	○		
臨床心理実習Ⅰ		2	◎			◎
臨床心理実習Ⅱ		2	◎			◎
特定課題研究Ⅰ		1			◎	
特定課題研究Ⅱ		2			◎	
臨床心理演習Ⅰ	選択 必修 科目	1	◎	○		
臨床心理演習Ⅱ		2	◎	○		
心理実践実習Ⅰ		1	○	○		◎
心理実践実習Ⅱ		2	○	○		◎
臨床心理学研究法特論		1		○	◎	
心理学研究法演習		1		○	◎	
臨床心理倫理特論		1	◎	○		○
精神保健医学特論(保健医療分 野に関する理論と支援の展開)		1	○	◎		○
学校臨床心理学特論(教育分野 に関する理論と支援の展開)		2	○	◎		○
非行・犯罪心理学特論(司法・犯 罪分野に関する理論と支援の展 開)		2	○	◎		○
産業保健心理学特論(産業・労働 分野に関する理論と支援の展開)		1	○	◎		○
家族・地域支援心理学特論(家 族・集団・地域社会における心理 支援に関する理論と実践)		2	○	○		◎
障害者(児)心理学特論(福祉分 野に関する理論と支援の展開)		1・2	○	◎		○
メンタルヘルス特論(心の健康教 育に関する理論と実践)		1・2	○	◎		○
精神分析学特論		1・2	○	◎		